

事業報告

2024

訪問看護認定看護師および
在宅ケア認定看護師による
在宅ケア・在宅看取り活動の推進

事業報告書

はじめに

会員の皆様、いつも本会の活動にご尽力いただきまして、本当に感謝いたします。

2024年日本訪問看護認定看護師協議会は、法人第11期になりました。

私たちの協議会は2009年8月、当時全国各地で個々に活躍していた訪問看護認定看護師約100名の先輩方が、訪問看護認定看護師のネットワーク構築と、仲間と共に訪問看護認定看護師としての質の向上を目指すことの必要性を感じて日本訪問看護認定看護師協議会を設立したのが始まりです。そして、2014年10月、さらなる活動の充実を目指し、一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会として法人化されました。

それから約11年、本会は訪問看護、在宅ケア認定看護師登録者数の約半数が入会する大所帯となりました。2023年12月9日には、法人第10期記念交流会を東京で開催することができました。開催にあたりご尽力いただきました会員の皆様、本当に有難うございました。そして、協議会の立ち上げから今日に至るまで携わった方々には、多大なご尽力を賜りましたこと、改めて有難うございますという感謝の気持ちで一杯です。

さて、2024年の元日に能登半島地震があり、今まで当たり前にあった日常が一瞬で壊されるという、自然災害には太刀打ちできない人間の無力さを痛感する事態が起こりました。その中でも、仲間の活動を心配し続ける本会の会員たちでLINEグループを作成し、情報共有をいたしました。私たちの協議会で何ができるか？を探りながら、そして今なお被災地で活動している仲間たちがいます。被災地支援に入った会員から、様々なのちに向き合う看護を提供していることを報告いただき、その姿勢や視点に、訪問看護、在宅ケア認定看護師だと再認識いたしております。

我が国は、多死社会に入りました。そして、当たり前に暮らしてきた地域の中で最期まで過ごしたいと言う団塊の世代が、後期高齢者になります。私たちは、在宅療養を支えるために訪問看護認定看護師、在宅ケア認定看護師として役割を果たし、リーダーシップを發揮するこの時代に生きています。そのため、私たちは本会のネットワークという強みを活かしつつ、チャレンジし続けることを忘れないで前進していきたいです。

これからも、自分たちが育った地域で最期まで暮らし続けたいと願う療養者の皆様を、当たり前に看取りができる訪問看護師を育成していきます。そして、子供から高齢者まで選ぶことなく、目の前にあるいのちに愛を持って向き合い続けることを誓いながら、日本訪問看護認定看護師協議会は今後も発展し続けます。

最後に、日本財団様におかれましては多大なるご支援をいただきましたこと、心より感謝いたします。

2025年3月吉日

一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会
代表理事 大橋奈美

－ 目 次 －

はじめに

第1章 事業の概要	1
1 事業の目的	
2 事業の目標	
3 事業のスケジュール	
第2章 事業の活動報告	7
1 ブロック活動	
1) 北海道ブロック	
2) 東北ブロック	
3) 北関東ブロック	
4) 関東ブロック	
5) 南関東ブロック	
6) 東海北陸ブロック	
7) 近畿ブロック	
8) 中四国ブロック	
9) 九州ブロック	
2 総会及び同時開催研修会、交流会	
1) 総会及び同時開催研修会	
2) 法人第11期交流会 2024	
3 地域貢献活動	
1) 訪問看護ステーションの運営改善相談、多機能化サポート	
2) 訪問看護ステーションのBCP作成支援	
3) メール相談	
4 報酬改定に向けた活動	

第3章 事 業 の 評 価	47
1 ブロック活動	
2 総会及び同時開催研修会、交流会	
3 地域貢献活動	
1) 訪問看護事業所の運営及び多機能化へのコンサルテーション活動	
2) 訪問看護ステーションの BCP 作成支援	
3) メール相談	
4 報酬改定に向けた活動	

別添資料	55
1 会員数及び9ブロック図	
2 組織について	
3 理事会の開催	
4 会員活動調査集計結果（一部抜粋）	

訪問看護認定看護師数・在宅ケア認定看護師数（日本看護協会 認定部資料）

第1章 事業の概要

- 1 事業の目的
- 2 事業の目標
- 3 事業のスケジュール

事業名	訪問看護認定看護師および在宅ケア認定看護師による 在宅ケア・在宅看取り活動の推進
------------	---

1. 事業の目的

平成4年の老人訪問看護制度発足以降、在宅での医療ニーズは拡大し、0歳から100歳超への様々な年代、難病、精神疾患、先天性疾患など多様な支援が必要となった。

現在の日本の医療政策では、急性期が過ぎて症状が安定した患者は在宅療養生活への移行を推進しているため、更なる拡大が予測される。患者や家族が自宅に戻った場合、介護保険制度等の利用も促進されているが、患者本人や家族が担う役割も多い。しかし、利用者の高齢化、独居世帯の増加などから患者本人や家族が担いきれない状況もある。また、地域の在宅医療資源や質の格差が生じ対応できず、望まない施設での生活を余儀なくされている現状がある。

このような背景から、以下のとおり目標を設定した。

中長期目的 ※3年後

- ・ ブロック活動を通じて個々の質向上を図り、地域で基幹的な役割を担うことができる
- ・ 地域に旬な情報発信を行い、地域の訪問看護師や事業所の質向上を図り格差を是正できる
- ・ 地域住民へ在宅療養に関する情報発信を行い、地域全体で住民生活の支援ができる
- ・ 2026年度で会員数571名を目指す

最終目的

多くの人が「住みなれた場所・地域」で心豊かに生活が継続でき、人生最期の時まで自身の望んだ場所で過ごすことができる社会を目指す。そのために医療・看護・介護従事者、住民、自治体が連携し、在宅看取りも選択できる社会となることを目的とする。

2. 事業内容と目標

(1) 自己研鑽活動

① ブロック活動支援

〔内容〕全国9ブロックごとに自己研鑽を目的とした活動の実施

〔目標〕活動実施報告書作成・アンケートによる満足度評価で8割満足

② 総会及び同時開催研修会・交流会

〔内容〕協議会会員が一堂に会する場を年2回設け、認定看護師更新審査に関する情報提供や資質向上を目的とした研修会などを実施するとともに、会員内での交流をはかる

〔目標〕全体での研修会、交流会の実施・参加者アンケートによる満足度評価で8割満足

(2) 地域貢献活動

① 訪問看護事業所の運営改善相談活動・多機能化サポート活動

〔内容〕全国の訪問看護従事者を対象とした、訪問看護ステーション運営等に関するミニ講座と座談会の実施

〔目標〕参加者 20 名・参加者アンケートによる満足度評価で 8 割満足

② 訪問看護ステーションの BCP 作成支援

〔内容〕全国の訪問看護従事者を対象とした、訪問看護ステーションの BCP 作成支援の実施

〔目標〕参加事業所 3 か所・参加者アンケートによる満足度評価で 8 割満足

③ 報酬改定に向けた活動

〔内容〕次の報酬改定に向けた準備

〔目標〕次回提言するテーマの検討

(3) 組織・広報力の強化

〔内容〕ホームページや Facebook による情報発信。事業報告書の制作・配布。理事会を年 3 回、理事ブロック長合同会議を年 2 回実施する。入会促進 PR を行う。

〔目標〕ホームページでの活動報告書の公開。事業報告書の制作。2024 年度訪問看護及び在宅ケア認定看護師合格者の 8 割入会

以上の活動によって、訪問看護認定看護師および在宅ケア認定看護師の社会的意義を高め、地域包括ケアシステムの構築に貢献できる人材となり、結果、地域住民がその人らしく最期まで暮らせる社会の構築に寄与する。

3. 事業スケジュール

本事業は、以下のスケジュールで行った

	月	日	内 容	ブ ロ ク	開催方法
2024	4	27	第 1 回理事会	—	Zoom
			ブロック会議	南関東	Zoom
	5	14	運営会議	メール相談	Zoom
		18	交流会(第 1 回看取りを考える会) ブロック会議	南関東	Zoom
		22	ブロック会議	東海北陸	Zoom
		23	ブロック会議	北海道	Zoom
	6	8	第 11 期定時総会	—	Zoom
		16	2024 年度 総会同時開催研修会	—	Zoom
		22	臨時理事会	—	Zoom
		7	ブロック会議	北関東	Zoom
	8	ブロック長会議	—	Zoom	

	10	ブロック会議	近畿	Zoom
	17	ブロック会議	東海北陸	Zoom
	23	ブロック会議	南関東	Zoom
	27	ブロック会議 研修会	東北	Zoom
8	10	交流会(第2回看取りを考える会)	南関東	Zoom
	15	ブロック会議	東海北陸	Zoom
	18	ブロック会議	北関東	Zoom
	23	ブロック会議	関東	Zoom
	27	ブロック会議	南関東	Zoom
9	4	第1回運営会議	ミニ講座	Zoom
	5	ブロック会議	関東	Zoom
	8	ブロック会議	北関東	Zoom
	14	第2回理事会	—	Zoom
	15	交流会	中四国	Zoom
	19	ブロック会議	九州	Zoom
	21	研修会 ブロック会議	東海北陸	Zoom
	26	第1回運営会議	BCP支援	Zoom
	28	研修会	南関東	Zoom
	29	ブロック会議	関東	Zoom
10	21	第2回運営会議	BCP支援	Zoom
	24	ブロック会議	東海北陸	Zoom
	24	ブロック会議	九州	Zoom
	26	第1回運営会議	報酬改定	Zoom
11	1	ブロック会議	関東	Zoom
	9	ブロック会議	関東	Zoom
	9	交流会(第3回看取りを考える会)	南関東	Zoom
	12	第2回運営会議	ミニ講座	Zoom
	12	第2回運営会議	報酬改定	Zoom
	14	ブロック会議	九州	Zoom
	18	第3回運営会議	BCP支援	Zoom
	26	第4回運営会議	BCP支援	Zoom
	26	第3回運営会議	報酬改定	Zoom
	27	ブロック会議	東海北陸	Zoom
	30	交流会 2024	—	浜松町コンベンションホール (集合開催)

12	7	ミニ講座&座談会 第3回運営会議	ミニ講座	Zoom
	10	第4回運営会議	報酬改定	Zoom
	11	ブロック会議	関東	Zoom
	13	訪問看護BCP「研修・訓練・見直し」 一気にこれだけ90分	BCP支援	Zoom
		第5回運営会議		
	14	ブロック会議	南関東	Zoom
	16	ブロック会議	関東	Zoom
	24	第5回運営会議	報酬改定	Zoom
	7	ブロック会議	南関東	Zoom
	11	交流会 ブロック会議	近畿	Zoom
2025		Zoomリハーサル	九州	Zoom
16	ブロック会議	東海北陸	Zoom	
14	第6回運営会議	報酬改定	Zoom	
18	交流会	北関東	Zoom	
	交流会(第4回看取りを考える会)	南関東	Zoom	
24	訪問看護BCP「研修・訓練・見直し」 一気にこれだけ90分	BCP支援	Zoom	
	第6回運営会議			
	研修会	北海道	Zoom	
25	交流会 ブロック会議	東海北陸	Zoom	
	交流会	中四国	高松商工会議所 (ハイブリッド開催)	
	研修会 交流会 会議	九州	熊本県看護研修センター (ハイブリッド開催)	
	第7回運営会議	報酬改定	Zoom	
	ブロック会議	九州	Zoom	
2	1	研修会 ブロック会議	関東	Zoom
	11	ブロック会議	北関東	Zoom
	12	ブロック会議	南関東	Zoom
	15	研修会 ブロック会議	南関東	Zoom

	9	第3回理事会(予定)	—	Zoom
		理事・ブロック長合同会議(予定)		
3	24	第8回運営会議(予定)	報酬改定	Zoom
		ブロック会議(予定)	南関東	Zoom
		ブロック会議(予定)	中四国	Zoom

※開催方法についてはその時の状況によるが、オンライン開催を基本とした

※2月28日時点での取りまとめのため、それ以降については予定

第2章 事業の活動報告

1 ブロック活動

- 1) 北海道ブロック
- 2) 東北ブロック
- 3) 北関東ブロック
- 4) 関東ブロック
- 5) 南関東ブロック
- 6) 東海北陸ブロック
- 7) 近畿ブロック
- 8) 中四国ブロック
- 9) 九州ブロック

2 総会及び同時開催研修会、交流会

- 1) 総会及び同時開催研修会
- 2) 法人第11期交流会 2024

3 地域貢献活動

- 1) 訪問看護ステーションの運営改善相談、多機能化サポート
- 2) 訪問看護ステーションのBCP作成支援
- 3) メール相談

4 報酬改定に向けた活動

1. ブロック活動

1) 北海道ブロック (ブロック長: 高畠智子氏)
正会員数 8名



(1) 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加者数
2024年 5月 23日(木)	会議	活動内容について検討、時期、方法など具体的で活発な意見交換ができた。これ以後会議なしで研修当日に臨むことができた。	5名
2025年 1月 25日(土)	研修	外部講師を招いて「在宅における慢性心不全看護」を学んだ。北海道ブロックメンバーだけの Zoom 研修とした。1時間30分の講義のあとに、30分の質疑応答も質問や感想が多く聞かれ、研修内容は充実した。資料も多く、貴重な話を聞けてメンバーからは大変好評だった。	5名

(2) 活動を通して

皆とても忙しい中で、会議や研修企画を行うことは、大変である。

1回の会議の中で具体的に内容を決めてしまって、研修準備はある程度担当者だけで進めることができる。時間を無駄にせず効率よく、良い研修が行えたと思う。

現在、北海道ブロックのメンバーは8名、内3名は参加できていないため、実質5名で活動している。道北1名、道東3名、道央3名、道南1名。この広域をカバーできるのはZoomのお陰である。訪問看護認定看護師として、今回学んだ「在宅静注強心薬持続投与の看護」は地域の訪問看護師へ普及させる事にも役立つと思われる。



※活動の詳細は、ホームページで公開
しております。QRコードを読み取り、
ぜひご覧ください



2) 東北ブロック (ブロック長: 平澤利恵子氏)
正会員数 7名



(1) 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加者数
2024年 7月27日(土)	会議	各会員の近況報告と地域課題についての報告、その地域課題にアドバイスして頂いたりした。 訪問看護の現場で活動する会員が少なくなってきた いるが、地域に対して活動している様子が伺えた。	4名
	研修	元日から北陸で発生した地震と津波。各地で災害に 対する関心が強まり、私達も13年前に経験した東 日本大震災を思い起こして災害に備えたいとい うことで「東日本大震災の経験から」というタイトルで 平澤が講師としてお話をさせていただいた。 研修会を通して、当時それが経験したことと思 い出し、減災できるように取り組むことを日頃から 行わなければならぬと強く感じた研修会となっ た。	4名

(2) 活動を通して

年に2回の会議と研修会の計画だったが、会員の日程がどうしても会わずに1回のみの開催になってしまった。それが地域に出て活動しており、土曜日に開催しようとすると地域の研修会と重なって出席できないということが多くなってきてている。会員数が7名と少ない事から半数以下になってしまふと開催の意味があるのかと考えてしまう。何かあればグループライン等で相談したりと、日頃から連携はできているのだが。

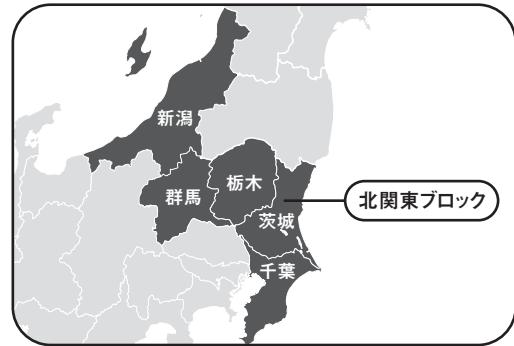
会員を増やすことが可能であれば、このような悩みは減っていくのだろうか。など、悩みは多いものの、東北ブロックの少数精銳に助けられながらまた来期、活動していく予定である。



※活動の詳細は、ホームページで公開
しております。QRコードを読み取り、
ぜひご覧ください



3) 北関東ブロック (ブロック長：西山めぐみ氏)
正会員数 35名



(1) 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加者数
2024年 6月 16日(日)	会議	Zoom にて開催 ・ブロック役員顔合わせ ・第1回ブロック会議の協議内容の打ち合わせ	17名
6月 22日(土)	会議	Zoom にて開催 ・会員の顔合わせ ・今年度役員の紹介・挨拶 ・今年度の活動計画に関する意見交換 ・年間計画の策定 ・会員の活動状況や今年度の計画など情報交換	10名
8月 18日(日)	会議	Zoom にて開催 ・次年度の交流会のテーマの検討	10名
9月 8日(日)	会議	Zoom にて開催 ・今年度の交流会に関する協議 ・次年度の活動計画を協議	13名
2025年 1月 18日(土)	交流会	Zoom にて開催 「能登半島地震のボランティア体験を聴き皆で考え よう～災害時に直面する課題を知り認定看護師とし てできること・役割を見出そう」	14名
2月 11日(火)	会議	Zoom にて開催 ・交流会の結果報告 ・今年度の活動の振り返り ・次年度の交流会テーマ検討 ・各自近況報告	14名

(2) 活動を通して

先般の新型コロナ感染症のパンデミック、BCP策定の義務化等で、災害時の訪問看護認定看護師の役割とは何か考える機会が増え、今年度の交流会ではぜひ災害に関して考えたいと会員から意見

が寄せられていた。そのような中、能登半島地震のボランティアに参加した北関東ブロック会員であり、協議会理事の山崎佳子氏にボランティア体験をお話していただき、参加者が災害に関して考える場を作る事を目的として交流会をWEB開催した。参加者はブロック外の会員も含め14名。ボランティア体験のお話では、参加するまでの準備や、長時間車を運転し現地に向かうまでの行程の詳細や、ボランティア参加のハードルが少し下がるような情報をユーモアも交えながらお話してくださった。また、実際のボランティア活動の様子は被災地の方のご厚意もありたくさんの画像を準備してくださり、ニュースなどとは一味違った訪問看護師目線の貴重な情報を提供してくださった。グループワークでは過去の震災被災地で活動する会員からの貴重な意見やBCPにおける災害訓練のヒントなど、交流会ならではの様々な話題が飛び交う機会となった。交流会後のアンケート調査では、災害支援での対象者の情報や支援者間の連携、支援を引き受ける側の在り方等様々な課題を具体的に考える機会になった。体験しなくてもこのような機会で聞いたことを伝えていくことも有意義なこと。今日のように学び考えていくことが大切だという意見が寄せられ、継続して取り組んでいきたいテーマであったと感じている。

北関東ブロックでは、コロナ禍以降はほぼWEB開催となっており、参集する機会がほとんどなかつたことも影響してか、定期的な会議と交流会以外で会員間の情報共有や交流機会が少ないことも課題と考えられる。年度末のブロック会議では、来年度に向けて、事例検討や地域の困りごとの共有機会などを会議の際に盛り込むことや、参集機会について提案され、実現に向けて検討していきたい。



※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



4) 関東ブロック (ブロック長: 山田富恵氏)
正会員数 52 名



(1) 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加者数
2024年 8月 23日(金)	会議	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の訪問看護(在宅ケア)認定看護師の仲間作りとして活動方向検討 ・新メンバー加入、自己紹介 ・2024年活動計画、研修会企画について 	7名
9月 5日(木)	会議	<ul style="list-style-type: none"> ・11/9 研修会企画、 	6名
9月 29日(日)	会議	<ul style="list-style-type: none"> 来年度活動計画案検討 ・研修会にむけて周知方法、係決め 	5名
11月 1日(金)	会議	<ul style="list-style-type: none"> ・11/9 研修会最終打ち合わせ 会場レイアウト、資料、アンケート内容など 	5名
11月 9日(土)	研修会	研修「在宅の力でV字回復! 在宅における呼吸ケア・リハビリテーション」	28名
	会議	<ul style="list-style-type: none"> 反省会 ・次回交流会または研修会企画について 	6名
12月 11日(水)	会議	<ul style="list-style-type: none"> 研修会交流会企画 ・内容検討、呼吸ケアについてもう一度企画 	5名
12月 16日(月)	会議	研修会開催にむけて具体案検討	4名
2月 1日(土)	研修会	研修「在宅人工呼吸療法～あなたの視点で患者様の人生が変わります」、チェスト株式会社 Vivo 貸出	14名
	会議	反省会	6名

(2) 活動を通して

新メンバー2人が参加し、研修会を2回開催し、うち2回目の研修会は呼吸器の実機を借り受け直に触れ、参加者の交流を実施した。

ブロック長の身体不調で活動スタートが出遅れたが、目的を決めて動き始めると各委員の発案や担当割がみるみる決まっていき、訪問看護師の現場での対応力のすばらしさを実感した。コロナ禍を経て、直に触れ、顔を合わせて話す機会は代えがたいと感じた。一方でZoomの扱いにも慣れて遠隔地からの会議や研修参加が容易になり、他ブロックの会にも参加できて、とても刺激を受けた。地域で新しい仲間作りを進めるため、活動の輪を広げていきたい。



※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



5) 南関東ブロック (ブロック長: 三橋由佳)
正会員数 24名



(1) 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加者数
2024年 4月 27日(土)	会議	第1回ブロック会議 ・引継ぎ ・今後の予定確認 ①全体研修会の日程と内容確認 ②交流会の日程調整 ・協議会の今年度の予定確認	5名
5月 18日(土)	交流会	第1回交流会「看取りを考える会」 若い方のがん末期利用者のケア 障害児の母親ががん末期利用者の場合の子供への対応 その他: 改正された制度についての意見交換	12名
	会議	第2回ブロック会議 ・第1回交流会の反省会 他 ・研修会の内容決定 ・協議会の今年度予定確認	3名
7月 23日(月)	会議	第3回ブロック会議 ・第1回研修会最終確認 ・第2回交流会の内容確認	3名
8月 10日(土)	交流会	第2回交流会「看取りを考える会」 ・2事例の検討	12名
8月 27日(火)	会議	第4回ブロック会議 ・次年度計画について ・第1回研修会について ・2024年度の入会者への活動のお知らせ方法 ・年間計画の修正	4名
9月 28日(土)	研修会	第1回研修会『在宅におけるがん看護最前線』 講師: 南松本訪問看護ステーション がん看護専門 看護師 赤木郁子氏	6名
11月 9日(土)	交流会	第3回交流会『看取りを考える会』	6名

		・在宅看取りの場面における、事業所スタッフの利用者や家族とのコミュニケーション力を高めるための方法	
12月14日(土)	会議	第5回ブロック会議 ・第2回研修会内容検討 ・第4回交流会について 詳細確認 ・2025年度の活動の方向性について	4名
1月7日(火)	会議	第6回ブロック会議 ・第2回研修会内部講師の伊藤みほ子様同席のもと、内容の最終確認	3名
1月18日(土)	交流会	第4回交流会「看取りを考える会」 ・実践での困りごと	6人
2月12日(水)	会議	第7回ブロック会議 ・第2回研修会のZoom利用のリハーサル ・段取りの最終確認	5名
2月15日(土)	研修会	第2回研修会『認定看護師のミッション『相談』をリフレクションしてみませんか』 講師：南関東ブロック前理事 長野県看護協会常務理事 伊藤みほ子氏	11名
	会議	第8回ブロック会議 ・第2回研修会について ・今後について(引継ぎ・年間計画の周知など)	3名
3月	会議(予定)	引継ぎ	

(2) 活動を通して

2021年度「在宅看取りを実践できる訪問看護師の育成事業」の各ブロック開催実施後、当ブロックでは2023年度より交流会を『看取りを考える会』として賛同してくださった加入者11名程度で旗揚げした。2024年度も役割分担しながら進めている。利害関係のない仲間だからこそ、普段職場では解決できない心境なども共有でき、認定としての役割なども確認しながら実践を深めることにつながっている。

交流会参加者とも検討し、1回目の研修は『看取り』に関連して、最新のがん看護について学んだ。外部講師としてがん専門看護師をお招きし、在宅療養を継続するポイントとなる疼痛コントロールをしっかりと学習した。参加者からは、不安の中で退院したのに、家では状態が安定し痛みが落ち着いた経験から『在宅マジック』とも呼べる力があることも語られ、在宅での可能性をさらに広げる知識となった。2回目の研修は、認定看護師の基本のきに立ち返り、『相談』についての研修を、内部講師で実施した。コンサルテーションのタイプから始まり、具体的な対応方法などもご講義いただくことで、参加者のリフレクションにつながっ

たと考える。また、内部講師の所属先における実践活動をご紹介いただき、訪問看護に関する様々な問題を一元的に対応すべく相談に乗っていく仕組みは、今後の訪問看護認定看護師・在宅看護認定看護師の可能性の一つと考えられ、将来への希望にもなった。

今回も、事務局のご協力を得て、ブロック全体に広報していただき、2回目は初めて他ブロックの方の参加も得ることができた。

今後も、当ブロックの活動を知っていただくために広報していくことの必要性と、協議会そのものを知っていただき、加入者を増やすことも視野に入れて活動していく必要性があると考える。



※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



6) 東海北陸ブロック (ブロック長: 山端二三子氏)
正会員数 100 名



(1) 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加者数
2024 年 5 月 22 日(水)	会議	役員会議 ・ 2024 年度の東海北陸ブロック活動内容と役員の役割の確認 ・ 9 月の研修会内容と当日までの行動計画立案	13 名
7 月 17 日(水)	会議	役員会議 ・ 9 月研修会案内チラシ案 ・ 当日までのスケジュール確認	8 名
8 月 15 日(水)	会議	役員会議 ・ 9 月 30 日研修会の進行打ち合わせ ・ 当日における役割と進行の最終確認	8 名
9 月 21 日(土)	研修会	【テーマ】 外国人の在宅療養支援と意思決定支援 【講師】 特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター 居宅部門 ゼネラルマネジャー 呼和徳力根先生 訪問看護ステーションはれ 所長 山根香代子先生	33 名
	会議	役員会議 ・ 研修会の振り返りから課題と検討 ・ 来年度の活動計画について ・ 1 月の交流会内容の検討	9 名
10 月 24 日(木)	会議	1 月 25 日交流会の進歩状況	8 名
11 月 27 日(水)	会議	・ 1 月 25 日交流会の進歩状況と打ち合わせ ・ 来年度の役員について	8 名
2025 年 1 月 16 日(木)	会議	役員会議 ・ 1 月 27 日交流会 Zoom リハーサル ・ 当日における役割と進行の最終確認	8 名

1月25日(土)	交流会	<p>① 認定看護師の5年目更新報告 静岡県：栗冠弘美氏</p> <p>② 活動実践報告</p> <p>○ チーム、地域をつなぎ活性化させる実践活動 ～住み馴れた場所で暮らし続けられる地域づくり～ (愛知県：須田敏枝氏)</p> <p>○ 看取りの文化の普及を目指して～訪問看護での 看取りの実際～(岐阜県：大平陽子氏)</p> <p>○ 地域住民の心と体の健康を支える看護師の取り 組み～ご近所ナースの保健室の活動から～ (愛知県：山端二三子氏)</p>	28名
	会議	<p>役員会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流会の振り返り ・ 来年度の活動計画と研修会のテーマを検討 	9名

(2) 活動を通して

今年度の東海北陸ブロックは、認定看護師として地域に暮らす多様な文化背景を尊重した在宅療養支援、意思決定支援ができる、また、訪問看護利用者だけではなく、地域の人々に自分らしい生き方を伝えつなげる活動ができる目的として研修会や交流会を開催した。

研修会では事例から地域に暮らす多様な文化背景、外国人の在宅療養生活支援のスキル、そして多様な価値観や文化的感受性を高める学びの時間となった。交流会においては、参加した会員より活動実践報告から「地域のつながりや看取り支援の自己の課題がわかった」「元気がもらえた」「とても刺激がもらえた」等で今年度も活動を振り返る機会となり、自己の課題や取組みに繋げることができた。

今年度も東海北陸ブロックは和やかに楽しく学び合い、語り合うことから、認定看護師としての資質向上に繋れた活動であった。今後もこのような活動が継続できるよう東海北陸ブロック役員はそれぞれの地域で訪問看護認定看護師が地域全体を包みこむような温かい活動となるような研修や交流会を企画していきたい。



※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



7) 近畿ブロック (ブロック長:木田里美氏)
正会員数 84名



(1) 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加者数
2024年 7月10日(水)	会議	・ブロック長会議の報告 ・今年度の委員のメンバーの確認 ・今年度の活動内容について	11名
2025年 1月11日(日)	交流会	R6 年度実践報告会 ・訪問看護認定看護師・在宅ケア認定看護師の活動発表	38名
	会議	・実践報告会の振り返り ・次年度の計画検討	9名

(2) 活動を通して

近畿ブロックでは、例年2府4県の代表者からの実践報告を実施している。ブロック内の認定看護師の活動内容を知り、自身の活動に活かし、実践力の向上を図ることを目的とした。

兵庫県稻葉典子様より「『BCPをつくる、ひろげる、そだてる』のその後～能登半島地震災害支援経験をふまえて～」、京都府の茶谷妙子様より「訪問看護支援センターから見た訪問看護ステーションのこれから」、滋賀県の今井直子様より「最後まで自分らしく生活するための地域への取り組み」、大阪府の工藤美鈴様より「法人内認定看護師との連携や実践活動」、和歌山県の南たえこ様より「専門・認定看護師で在宅ネットワークを作ろう」、奈良県の伊藤絹江様より「認定看護師としての訪問看護支援センターの活動」を発表頂いた。

それぞれの地域に必要とされる活動を、認定看護師として率先して担い、1歩進んでいる取り組みばかりでした。そんな仲間に刺激を受け、質疑応答もかなり活発で、「また連絡するので詳しく教えて下さい。」と自身の活動の参考にする交流もあった。

アンケート結果では「大変満足」と「満足」併せて100%で、この実践報告会は継続してほしいという意見が多数あり、効果があったと考える。また開催方法もZoomであることで参加しやすく、続けてほしいという希望も多く、終了後のブロック会議で、次年度も継続していくことに決まった。



※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



8) 中四国ブロック (ブロック長: 金尾知子氏)
正会員数 30名



(1) 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加者数
2024年 9月 15日(日)	交流会	Zoom にて開催 ・ ブロックメンバーの顔合わせ ・ 今後のブロック内の活動の検討 ・ 報告会・交流会の内容検討	16名
2025年 1月 25日(土)	交流会	ハイブリット型にて開催 ・ 各県(山口県を除く)の代表から、各県の取り組み、個人での活動、特定行為の実施状況などを報告 ・ 次年度に向けての活動内容の検討	19名
3月予定	会議	Zoom にて開催 ・ 今期の反省と来期への活動予定内容検討	

(2) 活動を通して

中四国ブロックは、在宅ケア認定看護師の入会数が増えたため、30名を超える会員数となっている。今年度は、地域で認定看護師として各自が活動している実践や役割を報告してもらい、ディスカッションを通して横のつながりを深めていき、自分たちの今後の実践の参考にしていくことを目的に計画を立てた。

報告会では、訪問看護認定看護師として、行政とのつながり、地域住民の健康を促進する活動、訪問看護の普及・促進、次世代の育成などの活動報告があった。また、在宅ケア認定看護師として特定行為を実践していくための苦労や悩み、実践の状況などを知ることができた。地域で活動している仲間の実践を聞くことでとてもいい刺激を受け、これから自分の活動に向けてのエネルギーチャージをすることができた。

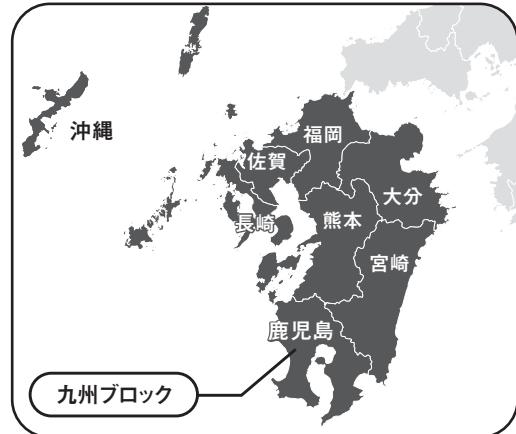
来年度に向けて、ブロック活動の規約の策定、ブロック内での役割分担を検討していくと考えている。会員の一人一人が地域で活躍ができ、地域の住民に対して質の高い訪問看護を提供するだけでなく、次世代の訪問看護師の育成にも積極的に関わっていくことが必要であると感じている。



※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



9) 九州ブロック (ブロック長: 森安玲子氏)
正会員数 16名



(1) 年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加者数
2024年 9月 19日(木)	会議	・今年度研修計画について ・次年度研修計画について	4名
10月 24日(木)	会議	・今年度研修及び交流会の内容、講師選定 ・担当の役割分担について	4名
11月 14日(木)	会議	・今年度研修チラシ確認、広報活動について ・次年度研修会沖縄県開催について	5名
2025年 1月 11日(木)	リハーサル	・1月 25日ハイブリット研修に伴う画像音声等々の確認 ・役割分担の確認	5名
1月 25日(土)	研修会	「VUCA の時代に看取りに寄り添うあなたへ」 講師: 亀田医療大学 准教授 千葉恵子氏	15名
	交流会	「特定行為研修を修了して考えた事」 講師: 大分県 小野朱美氏 「認定看護師更新の変更について」 講師: 鹿児島県 川崎幸栄子氏	8名
	会議	・令和 6 年度 研修会・交流会の振り返り	5名
1月 30日(木)	会議	・今年度研修会のアンケート結果等報告 ・次年度の活動計画について ・2025 年度企画・運営委員募集について	5名

(2) 活動を通して

今年度、活動開始が 9 月と遅くなったにもかかわらず、1 月には研修・交流会を開催する事ができ、日頃から地域活動にも取り組んでおられる、訪問看護認定看護師の皆様の底力を実感した。また、今年度は沖縄県の下地様が企画・運営委員に参加して頂くことができた。次年度も計画的に声掛けを行い、九州ブロックのネットワークづくりをより強固なものにしていくためにも、中心となって活動を行って下さる仲間を増やす活動が必要であると考えている。

令和 6 年度の研修会はハイブリットで行った。会場参加 8 名、Zoom 参加 7 名。うち非会員の方々は 7 名であった。中にはケアマネジャーの方も 1 名参加してくださった。皆で、広報活動を行

った結果であると考える。これからも、自身を大切にし、心穏やかに実践できる日々が来るよう、マインドフルネスを活用できたらと考える。アンケート結果から、非会員の方の声として、訪問看護認定看護師九州ブロックの研修を楽しみにされているご意見を頂いた。よりよい訪問看護の実践が行えるよう、これからも楽しく九州ブロック企画・運営委員の方々と共に活動を行きたい。

今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。



※活動の詳細は、ホームページで公開しております。QRコードを読み取り、ぜひご覧ください



2. 総会及び同時開催研修会、交流会

1) 総会及び同時開催研修会

(1) 開催実績

日 時：2024年6月8日（土）10:00～12:30

開催方法：Zoomミーティング

参加人数：総会）出席78名・委任状181名 合計259名 / 研修会）80名

プログラム：

時間	プログラム
9:50～	オリエンテーション
10:00	『第11期定時総会』 開会の挨拶・議長選任 大橋代表 総会 議案説明 廣川副代表 議案採決 議長 大橋代表
10:20	『同時開催研修会』 情報提供：「認定更新申請の情報提供」 北関東ブロック 西山めぐみ氏
10:40	休憩
10:50	講義：「働きやすい職場づくりへの挑戦」 監事 東海北陸ブロック これからのは在宅医療・看護・介護を考える会 野崎 加世子氏
11:50	グループワーク：①講義を聞いて感じたこと ②相談を受けたら認定看護師としてどう支援するか
12:15	発表
12:25	まとめ
12:30	閉会の挨拶 廣川副代表

(2) 活動を通して

本年度もオンラインを利用したZoom開催となった。

総会では委任状を含む259名が参加、同時開催の研修会では80名の参加があった。研修会は①訪問看護認定看護師更新申請のための情報提供 ②訪問看護ステーションの『働きやすい職場づくりへの挑戦』をテーマに講演を開催。参加者のアンケートから高評価を得ることができた。

8名がスタッフとして集まりZoom配信を行った。総会の採決の際にトラブルがあり少し慌てたが、みんなで機転を利かせて対応し時間内で終了することができた。



2) 法人第11期交流会 2024

(1) 開催実績

日 時：2024年11月30日（土）17:00～19:00

開催方法：集合開催（会場 浜松町コンベンションホール 6階 大会議室B）

参加人数：46名

プログラム：

時間	プログラム
16:50～	オリエンテーション
17:00	開会の挨拶 大橋代表
17:05	講演：「認定看護師更新制度の変更について」（事前収録） 公益社団法人 日本看護協会 常任理事 木澤晃代氏
18:20	グループワーク：認定更新制度の変更を受け、今後の私たちについて
18:45	発表
18:55	まとめ
19:00	閉会の挨拶 廣川副代表

(2) 活動を通して

対面開催で46名の参加があった。総務は司会進行と全体の総括を行い、その他理事、ブロック長、事務局が会場準備や講演で必要なパソコン操作など役割など分担し、準備を進めた。グループワークでは、話が盛り上がりその内容を全てのグループで共有できるよう時間調整など行った。全国から認定を取得したばかりの会員、大ベテランまで対面での交流会となりアンケートも高評価を得る事ができた。



3. 地域貢献活動

1) 訪問看護ステーションの運営改善相談・多機能化サポート

活動名：訪問看護ステーションの運営改善相談・多機能化サポート

メンバー：7名

豊田好美氏（理事）・田川章江氏（理事）・野崎加世子氏（監事）

雨森千恵美氏（近畿ブロック）・江戸英雄氏（関東ブロック）

佐伯聰子氏（関東ブロック）・下岡三恵氏（関東ブロック）

（1）年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2024年 9月4日(水)	第1回運営会議	・挨拶と自己紹介 ・事業の概要説明（当協議会で行うに至った経緯・ 今年度のテーマ・今後のながれ・研修内容について） ・検討事項（役割分担・座談会のグループ分け）	6名
11月12日(火)	第2回運営会議	・日程・進行確認、Zoom操作練習、座談会の進行 確認	6名
12月7日(土)	ミニ講座& 座談会実施	(2) 参照	
	第3回運営会議	・研修会後にアンケート結果の確認 ・メンバー間の意見交換	7名

（2）ミニ講座「安定したステーションの運営を目指して」&座談会の開催

日 時：2024年12月7日（土）9:00～12:00

開催方法：Zoomミーティング

参加人数：16名

プログラム：

時間	プログラム	担当
9:00～	開会の挨拶 オリエンテーション	
9:10	ミニ講座「安定したステーションの運営を目指して」 ①訪問看護ステーションの運営って大変！だけど楽しいよ	下岡
	②地域のニーズに合わせた訪問看護の展開を考える～滋賀県から～	
10:10	休憩	

10:20	座談会 ●自己紹介、フリートーク ●振り返りとまとめ	
11:20	グループ発表	
11:40	本日のまとめ 閉会の挨拶	
11:50	アンケート説明と入力	
12:00	閉会	

(3) 活動を通して

好評をいただいている地域貢献活動も3年目となった。今回も閉鎖、休止に追い込まれるステーションや孤独になりやすい管理者に向け、「明日からも頑張ろう」と思っていただける相談の場として認識していただくことを目標に、「安定したステーションの運営をめざして」と題し2名の協議会会員に経験を話していただいた。その後4~5人のグループでファシリテーターを含めた60分の座談会を実施し、各グループでテーマを超えた内容で和気あいあいと話しができ「悩みをもって日々大変に思いながらも頑張っている同志がいて励みになった」、「悩みは同じなのかもと思え気持ちが楽になりました」などの感想があり参加者の笑顔がみられた。参加者アンケートから満足度は高く、私たちに相談者としての役割を望まれていると感じた。

一方、参加人数をもう少し増やせるよう広報課題も感じた。経営運営や人材育成への関心が高いこと、相談には地域性があるため様々な地域からのメンバーが必要という意見もあり研修会だけではなくメール相談やアドバイザー派遣へ繋げていけることも必要と感じた。



ミニ講座「安定したステーションの運営をめざして」&座談会 アンケートまとめ

作成:令和 6 年度 ミニ講座 &座談会運営委員

開催日:2024 年 12 月 7 日(土)

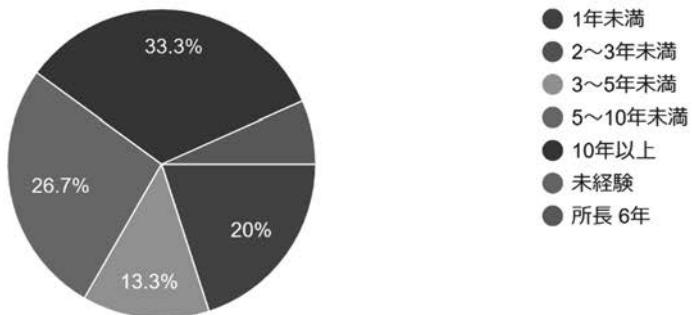
参加人数: 16 名

回答件数: 15 件/回答率 93.8%

1. ご回答頂く方についてお伺いします

管理者経験年数は、次のうちどれにあたりますか？

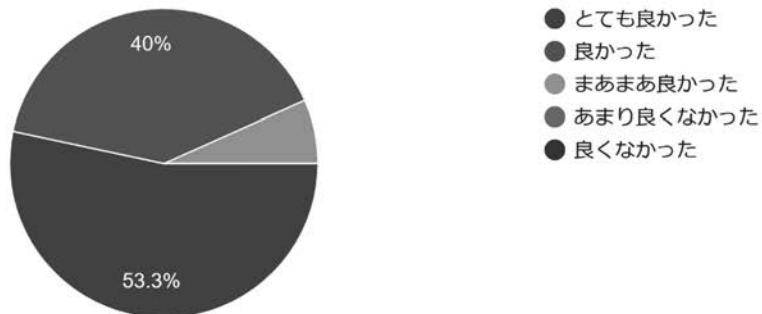
15 件の回答



2. ミニ講座「安定したステーションの運営をめざして」についてお伺いします

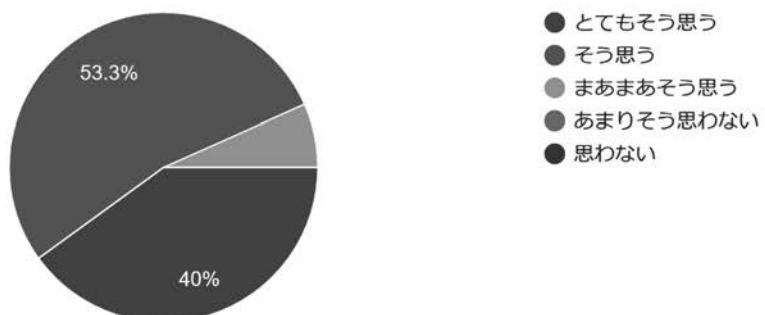
1) 講義 1 「① 訪問看護ステーションの運営って大変！だけど楽しいよ」はいかがでしたか？

15 件の回答



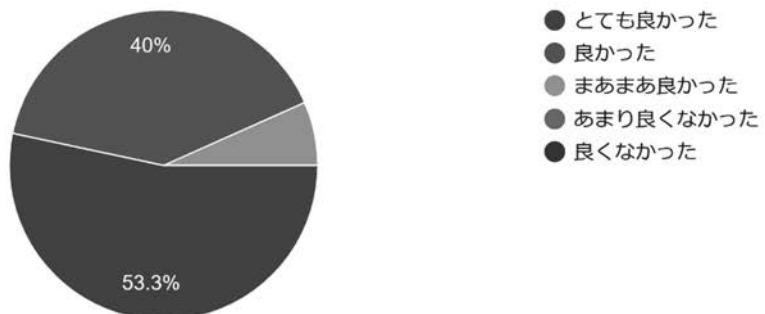
2) 講義 1 の内容は、今後に活かせますか？

15 件の回答



3) 講義 2 「地域のニーズに合わせた訪問看護の展開を考える～滋賀県から～」はいかがでしたか？

15 件の回答



4) 講義 2 の内容は、今後に活かせますか？

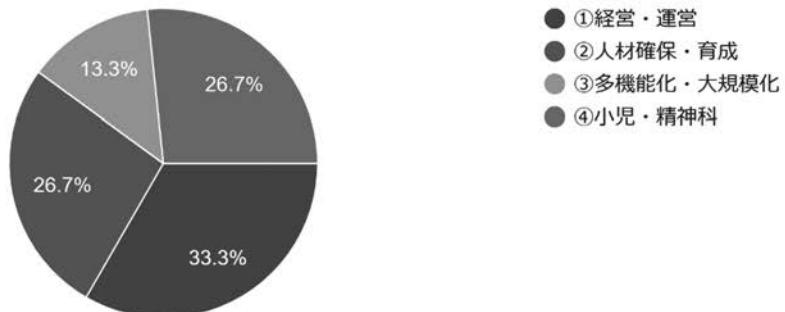
15 件の回答



3. 座談会についてお伺いします

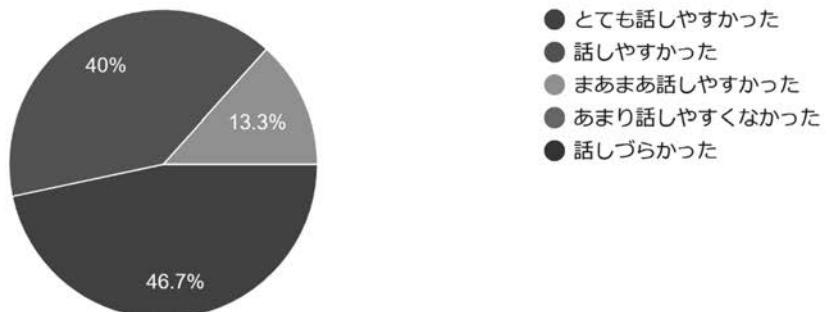
1) 参加したテーマは、次のうちどれですか？

15件の回答



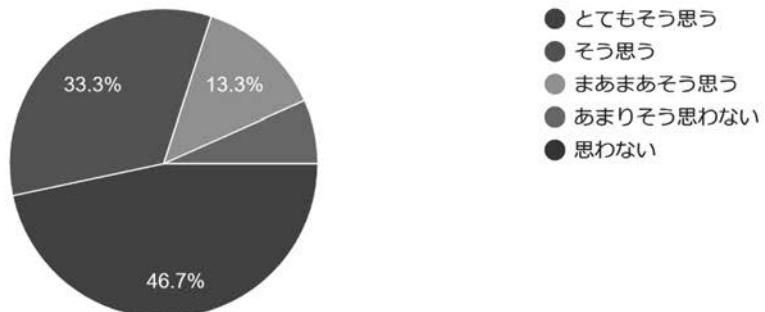
2) 座談会では話しやすかったですか？

15件の回答



3) 問題や課題を整理することができましたか？

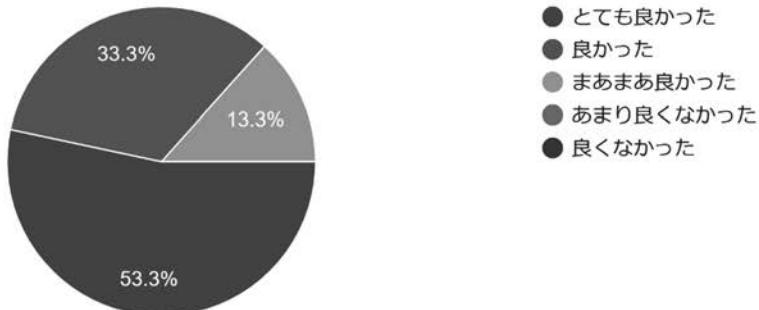
15件の回答



4. 今回の企画全般についてお伺いします

1) 今回のミニ講座＆座談会に参加してどうでしたか？

15 件の回答

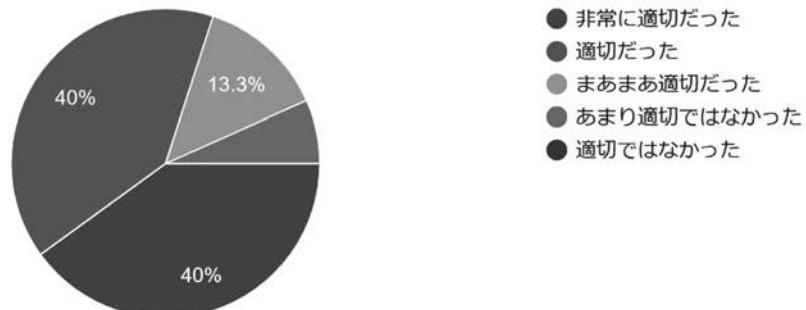


2) 今回参加してのご感想やご意見がございましたら、ぜひお聞かせください(9 件の回答)

- ・悩みは同じなのかもと思え、気持ちが楽になりました。参加させていただき良かったです
- ・またぜひ参加したいです
- ・参加費用がもう少し安いとうれしいです
- ・同じ環境にある事業所の方々とグループワークできて良かったです
- ・本日の研修を通して、自分だけじゃなく悩みを持って日々大変に思っていながらも、訪問看護事業を継続するために頑張っておられる同志がいて心の励みになりました。ありがとうございます
- ・背中を押してもらった、そして温かい気持ちになりました。ありがとうございました
- ・ありがとうございました。座談会をテーマごとに分けてるので、ミニ講座も時間の関係もあるかもしれません、テーマごとにミニ講座で話を聞けたらさらに良かったと思いました
- ・講演は参考になりました。座談会では他のステーションの方との意見交換がなかったので残念でした
- ・同じことで悩まれてることがわかり安心した

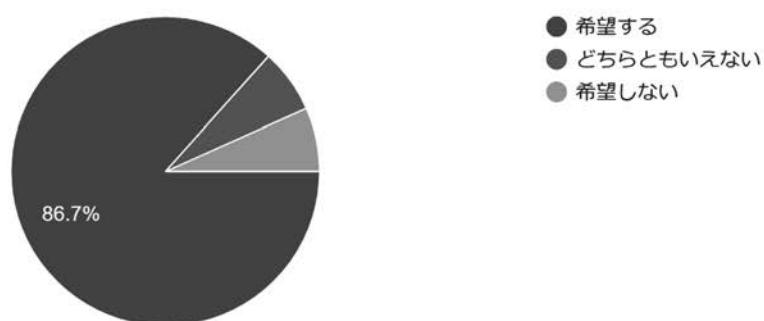
2) 参加費は適切でしたか？

15 件の回答



3) このようなイベントの開催を今後も希望しますか?

15 件の回答



4) 訪問看護認定看護師に期待することなどお聞かせください(3 件の回答)

- ・訪問看護というお仕事を色々な看護師の方に知ってもらい仲間が増えることを期待したいです
- ・このような研修の継続を期待します
- ・ステーションごとに研修会も含めたコンサルテーションを個別的にしていただけることを期待します

2) 訪問看護ステーションのBCP作成支援

活動名：訪問看護BCP「研修・訓練・見直し」一気にこれだけ90分

メンバー：6名

戸崎亜紀子氏（理事）

飯島美佳氏（南関東ブロック）・露木里恵氏（南関東ブロック）・碓田弓氏（東海北陸ブロック）

稻葉典子氏（近畿ブロック）・羽田雅代氏（関東ブロック）

（1）年間活動実績

開催日時	活動項目	概要	参加人数
2024年9月26日(木)	第1回運営会議	・事業の趣旨・概要、年間スケジュール、支援内容	6名
10月21日(月)	第2回運営会議	・内容、回数、料金、対象の検討、チラシ作成と配布	5名
11月18日(月)	第3回運営会議	・対象のニーズ、担当部分の内容調整、進行について	5名
11月26日(火)	第4回運営会議	・申込状況、当日の流れ、内容再確認、アンケート	5名
12月13日(金)	実施	(2) 参照	
	第5回運営会議	・全体確認、実施後振り返り、次回に向けての修正	5名
2025年1月24日(金)	実施	(2) 参照	
	第6回運営会議	・全体確認、全体を通して振り返り	5名

一緒に見直そう
BCP

**訪問看護BCP
「研修・訓練・見直し」
一気にこれだけ90分**

①2024年12月13日（金）18:00～19:30申込締切12月3日
②2025年1月24日（金）18:00～19:30申込締切1月14日

※ 同じ内容です。ご都合の良いほうにお申込ください

BCPは作成して終わりじゃない！
見直しや訓練のコツをコンパクトに学んでみませんか？

対象	こんなかたにお薦め	参加費・申込
※ 全国の訪問看護師	※ BCPと災害マニュアルの違いがわからない	¥1,000+税
※ BCP担当者	※ BCP訓練どこから手をつけたらいいの？	オンライン研修
※ ケアマネジャー	※ BCP、新スタッフに説明できない	下記QRコードから申込みください
※ 介護職、相談員	※ BCP、連携型BCP、地域BCP情報知りたい	
※ 地域ケアに従事しBCPの知識を深めたい専門職などなどたまでも		

講師：日本訪問看護認定看護師協議会 BCP作成支援運営委員

お問い合わせ先
日本訪問看護認定看護師協議会

申込QRコード

一般社団法人
日本訪問看護認定看護師協議会

BCP作成支援運営委員会 担当理事：(公財)星和合病院 在宅事業部 戸崎
Tel024-983-5246 受付時間（平日9:00～17:00）

受講の流れ

```

graph TD
    A[申込] --> B[振込]
    B --> C[研修]
    
```

- パソコン1台につき1名で申込ください
- 申込受付は ①12月3日 ②1月16日です
- 頂いたメールアドレスに振込先情報をお送りします

振込先情報に速やかにお振込みください
振込氏名は申込と同じ名前でお願いします

- 振込を確認した方には、Zoomミーティングの入室情報と資料データをメールにて送信します
- 資料は各自で印刷し、受講してください

内容	
18:00	BCP研修
訓練	
グループトーク	
見直しについて	
トピックス 他	
19:30	閉会

(2) 研修開催

○第1回目

日 時 : 2024年12月13日(金) 18:30~19:40

開催方法: Zoomミーティング

参加人数: 28名

時間	プログラム	担当
18:00	事業の目的とスケジュールの説明	戸崎
18:05	研修:改めてBCPとは そしてBCMについて (BCPの概念、災害対策マニュアルとの違い)	稻葉
18:15	訓練:シミュレーションキットの10場面を体験しよう	碓田
18:40	シミュレーションキットの各スライドの考え方を解説 感想・質問	稻葉 戸崎
18:55	見直しについて	稻葉
	<研修・訓練のいろいろなバリエーションを紹介>	
19:00	・マッピングとハザードマップポータルサイトの活用 ・足立区高齢者施設の事例を通して	戸崎 羽田
19:20	連携型BCPの実践例の紹介(モデル事業HPのサイト紹介)	稻葉
19:25	質問、閉会	戸崎

○第2回目

日 時 : 2025年1月24日(金) 18:30~19:40

開催方法: Zoomミーティング

参加人数: 58名

時間	プログラム	担当
18:00	事業の目的とスケジュールの説明	戸崎
18:05	研修:改めてBCPとは そしてBCMについて (BCPの概念、災害対策マニュアルとの違い)	稻葉
18:15	訓練:シミュレーションキットの10場面を体験しよう	碓田
18:40	シミュレーションキットの各スライドの考え方を解説 感想・質問	稻葉 戸崎
18:55	見直しについて	稻葉
	<研修・訓練のいろいろなバリエーションを紹介>	
19:00	・マッピングとハザードマップポータルサイトの活用 ・足立区高齢者施設の事例を通して	戸崎 羽田
19:20	連携型BCPの実践例の紹介(モデル事業HPのサイト紹介)	稻葉
19:25	質問、閉会	戸崎

（3）活動を通して

昨年に引き続き、BCP 作成支援事業を開催した。今年度は既に各事業所において BCP を作成した状態であると考えられたので、そのうえで有益になる内容は何か検討し計画した。協議の上、この企画を通して今後 BCP を見直しできたり、研修を考えることが出来たり、訓練のコツを学ぶことが出来ることを目標とし開催することとした。将来の地域連携を見据えた情報として連携型 BCP についても情報提供とした。また一人でも多くの方が BCP について知識を深め、自分たちの地域で継続して取り組んでいけるよう低価格で開催することとした。

結果、全国から 86 名の方が参加され、アンケートの結果から「有益な情報を得ることが出来た」「自部署で取り組んでみたい」などの回答が得られた。会員と理事で構成する運営委員が認定看護師として地域貢献できたと考える。一方で「もっと時間をかけて具体的に行ってほしい」「分割して実施して欲しい」などの声も聞かれた。

今年度は地震や洪水だけでなく、豪雪被害や地盤沈下による住民避難と移動障害、山火事などが発生し、事業継続困難となる事象が自然災害だけないと考えさせられた。BCP の継続的な見直しや研修の必要性が増すことだろう。BCP に関する研修が巷で増えている状況なので、社会情勢や研修に対するニーズにあわせ、今後も検討していきたい。



訪問看護 BCP 「研修・訓練・見直し」一気にこれだけ90分 終了時アンケートまとめ

作成:令和 6 年度 BCP 作成支援委員

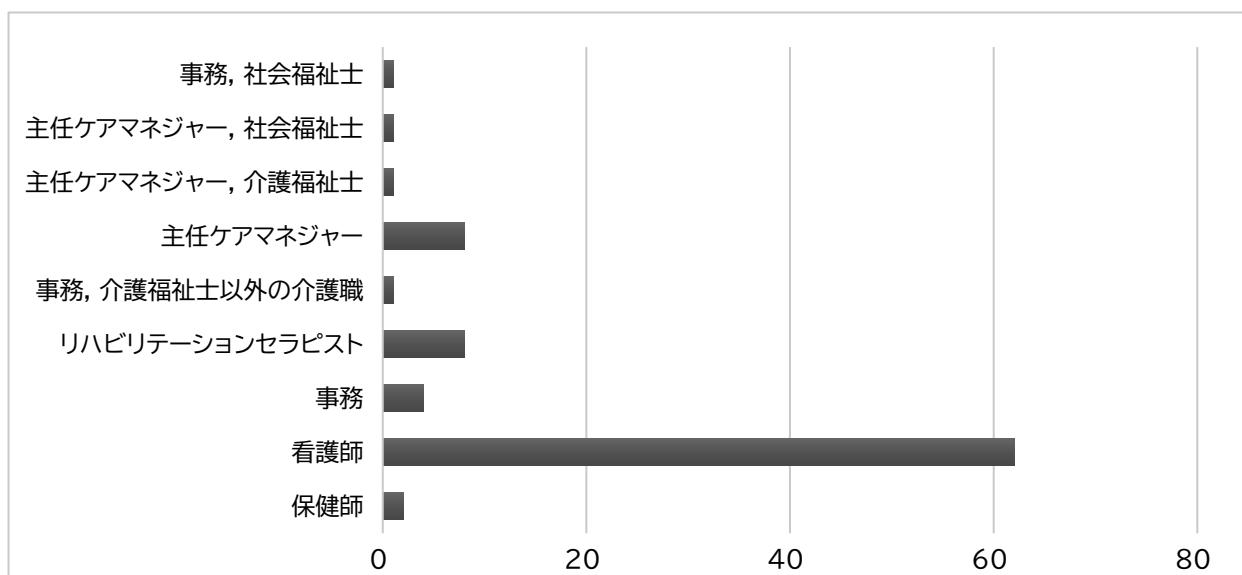
開催日: 第1回目 2024年12月13日(金)

第2回目 2025年 1月 24日(金)

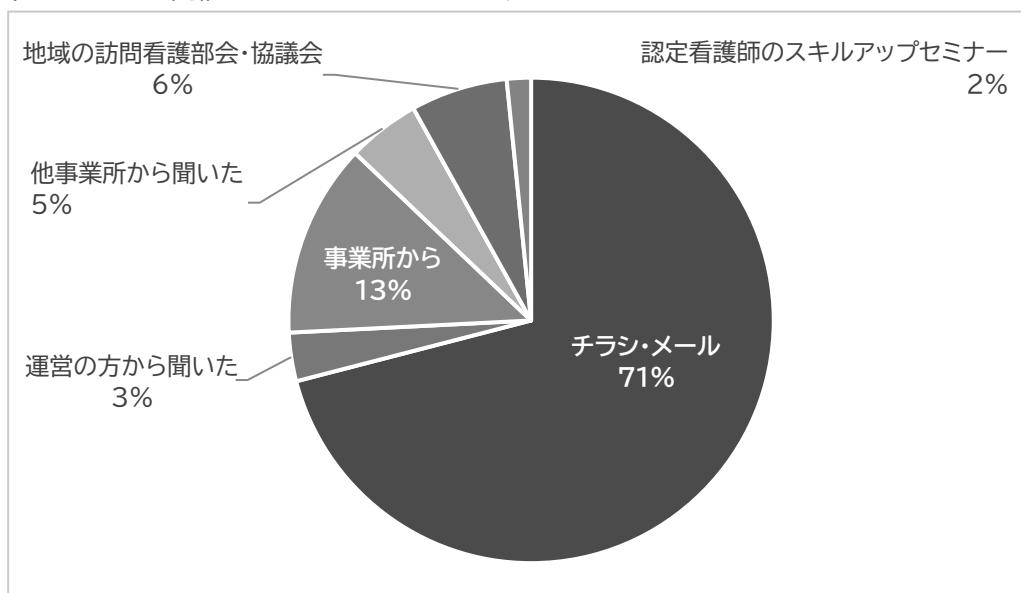
参加人数: 第1回目 28名 第2回目 58名

回答件数: 第1回目23名／28名 第2回40名／58名 全体 62名／86名 (回答率72%)

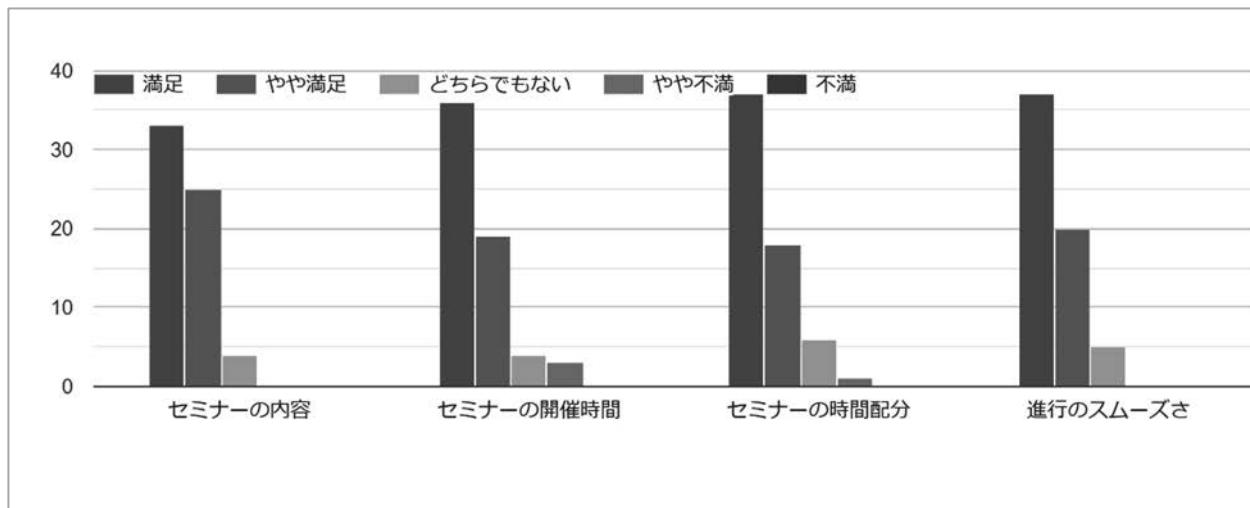
○参加者の職種



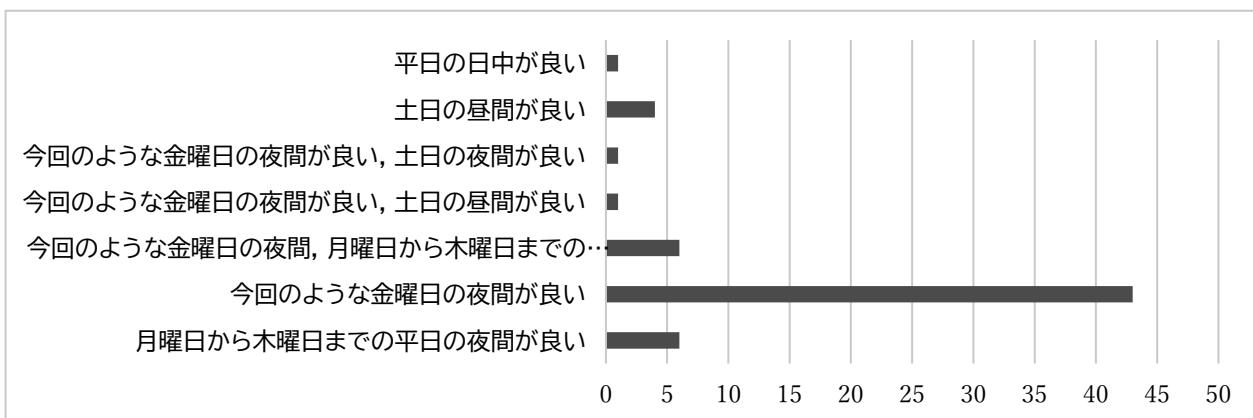
Q1. 今回のセミナーが開催されることをどのように知りましたか？



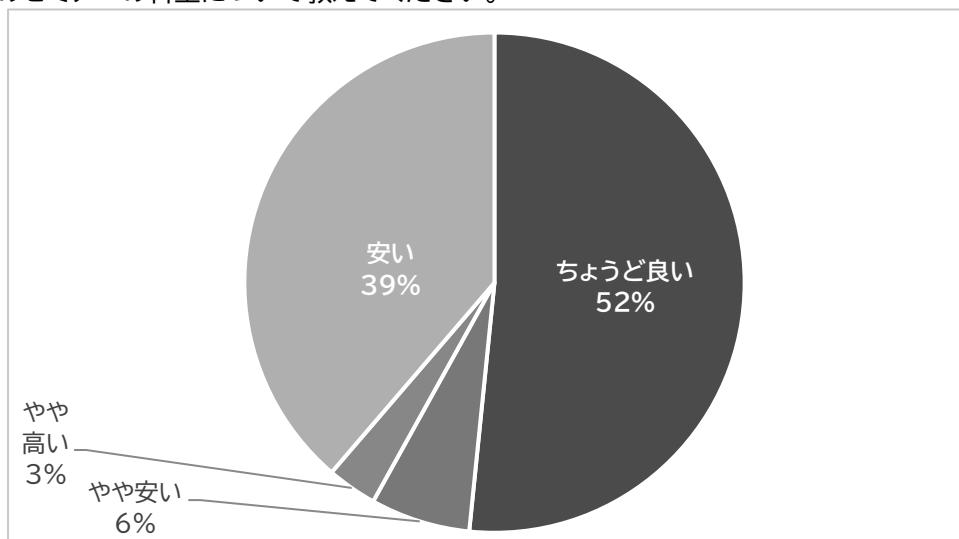
Q2 今回のセミナーに関する以下の点に関して、どの程度満足頂けましたでしょうか？
それぞれお答えください。



Q3. 今後の参考までにセミナーを開催する時間の希望についてお答えください。



Q4. 今回のセミナーの料金について教えてください。



Q5 今回のセミナーに参加して、学んだことや参考になることはありましたか？

(回答から抜粋)

- ・訓練ワークシートは、とても参考になりました。勉強会に活用したいと思います。
- ・研修方法のイメージがつきました。
- ・厚労省のシミュレーション、重ねるハザードマップ等早速事業所で活用したいと思いました。
- ・BCPは、職員主役。訓練シミュレーション勉強になりました。
- ・緊急時のマニュアルの見直しや、連絡手段など、勤務先のグループワークに参考にさせて頂きたいと思いました。
- ・訓練や見直しの手順確認や手段を分かりやすく説明されており、自事業者でも活用できると思いました。
- ・いろいろなケースを想定して、みんなで話し合う時間を持つことの大切さを学んだ。
- ・BCPは職員が主語になっているということ。
- ・BCPが業務継続計画であるということをあらためて学べた。
- ・BCPの必要性を再確認し、見直しの重要性も理解できました。
- ・研修、訓練のバリエーションについて分かりやすく説明があり参考になった。
- ・BCPに関して知識がないため参加しましたが、関連HPなどの情報をいただけて助かったです。
- ・国土交通省のマップや資料が参考になりました。
- ・緊急時のマニュアルの見直しや、連絡手段など、勤務先のグループワークに参考にさせて頂きたいと思いました。
- ・オールハザードの考え方は大変参考になった。
- ・沢山ありすぎて消化しきれません。初めの一歩的な研修はありませんか？ゆっくり理解しながら進めたいです。
- ・途中に介護事業者の倒産の対応についてお話がありましたが、前後のお話しの内容と関連があるように感じなかったです。あまり意味はないような気がしました。

Q6. 今回のセミナーに関してのご意見やご要望などありましたら、ご自由にお書きください。

(回答から抜粋)

- ・内容が重すぎて、分けてシリーズにしても良いかもしれません。
- ・対面研修で質問や相談できるとより助かります。時間の問題もあるかと思いますが、もう少し深く内容を聞きたい、ちょっとした疑問など知りたいと思いました。ありがとうございました。
- ・ボリュームの多い研修をありがとうございました。
- ・南海トラフはこの辺りでは最大の災害ですが、コロナ等の感染症もそうだと、忘れていました。
- ・また開催して頂きたいです。
- ・対面研修で質問や相談できるとより助かります。時間の問題もあるかと思いますが、もう少し深く内容を聞きたい、ちょっとした疑問など知りたいと思いました。
- ・ぜひ来年度も研修参加させて頂きたいと思います。他の県のステーションでの取り組みを知ることができ勉強になりました。
- ・体験談など具体例はたくさんあるとありがたいです。

- ・見直しの部分について、もう少し、確認したかったが、時間がギリギリで質問しづらかった。
- ・オールハザードアプローチは初めて知りました。
- ・視野が広がったように思います。
- ・スタッフとも受けたいです
- ・普段の業務で、なかなか見直しができていなかった現状は歪めません。度々、このような機会に遭遇し、意識づけを行いたいと思いました。

3) メール相談

活動名：訪問看護事業所の管理者向けメール相談

メンバー：5名

豊田好美氏（理事）・田川章江氏（理事）・野崎加世子氏（監事）

伊藤みほ子氏（南関東ブロック）・園野一美氏（近畿ブロック）

（1）年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2024年 5月14日(火)	運営会議	・今年度活動内容 メール相談募集について	5名

（2）実施概要

4月に1件5月に1件相談あり。いずれも管理者からスタッフ育成や運営についての相談があり、担当者がメンバーに相談してメールでの返信を行ったが、このうち1件は相談者近隣の認定看護師を紹介も行った。

このほか、ミニ講座＆座談会研修会の開催時に、今後の相談場所として広報を行った。

（3）活動を通して

管理者は相談する場がなかなか悩める方が多い。協議会に相談が増えており、ミニ講座＆座談会でも相談の場としての要望が聞かれていたため、訪問看護認定看護師として悩める管理者さんが解決の糸口を見いだせるよう協力したいとの思いから、2024年より開設した。

今年度は認定看護師として相談の経験も深い2名の方に声をかけ理事、監事含め5名で活動した。実際のメール相談の件数は2件と数は少ない状況である。1件は相談後にさらに地域の認定看護師を紹介しフォローしてもらっている。対応の中で対面ではなくメールでの相談の難しさを感じた。しかし、実際、相談者からは認定看護師に相談したことによかったとの声が聞かれている。

ミニ講座＆座談会後の相談の受け皿としても必要性はあり、地域の認定看護師を紹介するなどの機能も含め、今後も継続していきたいと考える。

4. 報酬改定に向けた活動

活動名：政策提言

メンバー：7名

廣川直美氏（理事）

大友史代氏（東北ブロック）・友井川眞佐美氏（近畿ブロック）・中野かおり氏（近畿ブロック）

岡田まり氏（東海北陸ブロック）・稻澤智美氏（関東ブロック）・堤風馬氏（近畿ブロック）

岡本双美子氏（近畿ブロック）

（1）年間活動実績

開催日	活動項目	概要	参加人数
2024年 10月26日(火)	第1回運営会議	<p>1. 活動目的</p> <p>①訪問看護、在宅ケア分野の認定看護師教育機関減少に対する調査と関係各所への情報提供等の提出</p> <p>②次回報酬改定に向けたテーマの策定から意見書提出</p> <p>2. 活動内容の検討</p> <p>3. 活動スケジュールについて</p> <p>上記について共有、対策の検討、議論を行った。認定看護師教育機関閉講への対応を優先し会員へのアンケート調査を行うこととした</p>	7人
11月12日(火)	第2回運営会議	<p>1. 認定看護師教育機関閉講に伴うアンケート内容の検討</p> <p>①訪問看護認定看護師の教育機関がなくなることでの影響について議論</p> <p>②アンケート内容の主軸の検討</p> <p>2. 活動スケジュールについて</p> <p>上記内容を実施、アンケート調査内容や時期等を検討、議論した</p>	7名
11月26日(火)	第3回運営会議	<p>1. 認定看護師教育機関閉講に伴うアンケート内容の検討</p> <p>①訪問看護認定看護師活動実践の数値化（本人・所属施設）</p> <p>②アンケート内容の検討</p> <p>各自検討した実際のアンケートの質問内容を整理、アンケートから要旨をどのように検討できるか議論、具体的な内容を検討議論した</p>	7名

12月10日(火)	第4回運営会議	1. 認定看護師教育機関閉講に伴うアンケート(案)の検討 ・アンケート内容を検討 上記内容を質問形式へ変更に関しての検討、議論を行う	7名
12月24日(火)	第5回運営会議	1. 認定看護師教育機関閉講に伴うアンケート(案)の検討 ・アンケート(案)の検討・効果の検討 今回より学識経験者の岡本双美子先生に参加いただき、有効性などの意見をうかがえるようにした。 アンケートの質問形式に変更し、内容や量などを検討議論	7名
2025年 1月14日(火)	第6回運営会議	1. 認定看護師教育機関閉講に伴うアンケート(案) 2. 活動スケジュール(案)について アンケート配布：1月20日（協議会会員へメールにて送信） 集計：2月10日締め切り 25日にまとめる 詳細：年度内 提出：令和7年度 上半期 具体的なアンケート及びフォームが決定し、会員への依頼方法等を決定	8名
2月25日(火)	第7回運営会議	1. 認定看護師教育機関閉講に伴うアンケート結果の検討 ・アンケートまとめ方法の検討、役割分担 2. 活動スケジュール(案)について アンケート結果：3月 提出：令和7年度上半期関係機関へ提出 上記内容について検討、議論を行った。岡本双美子先生よりまとめ方等の助言を受けた	6名
3月24日(火) (開催予定)	第8回運営会議 (予定)	1. 認定看護師教育機関閉講に伴うアンケート結果集計内容の検討 上記内容について検討議論する予定	

(2) アンケート実施概要

全会員に向けて、2025年1月に依頼し、回答を受けた。当初会員からの返答が鈍く、回答期限を延長し意見を集めた。結果322名中113名(35%)の回答を得ることが出来た。2月25日の会議にてまとめについて議論を行っているため、集計結果等は出ていないが今年度中には、まとめの素案が作成できる予定である。

（3）活動を通して

今年度は制度改正があり、来年度以降の政策提言に向けての活動を視野に委員会を立ち上げた。しかし、訪問看護分野・在宅ケア分野の認定看護師教育機関が 2026 年度で現在開講している所の閉講予定と、その後他教育機関でも開講の予定もない現状から、今年度は訪問看護・在宅ケア分野の認定看護師教育機関閉講に伴う弊害等をまとめ、関係機関へ向けて、私たち「訪問看護・在宅ケア認定看護師」の活動状況や意見を述べられるようアンケート調査を行った。アンケート調査への返答が 30% を超え収集できたことで、会員の傾向は確認できると考えている。

引き続き結果をまとめ、会員の意見を関係機関に提出し「認定看護師教育機関」が継続され、仲間を増やしてもらえるよう努力していきたいと考える。

第3章 事業の評価

- 1 ブロック活動
- 2 総会及び同時開催研修会、交流会
- 3 地域貢献活動
 - 1) 訪問看護ステーションの運営改善相談、多機能化サポート
 - 2) 訪問看護ステーションの BCP 作成支援
 - 3) メール相談
- 4 報酬改定に向けた活動

1. ブロック活動

ブロック活動は、認定看護師の資質向上や培った能力で地域に貢献するための活動などを企画・運営すること、また会員同士の情報交換のための交流会等を開催することを目指し取り組んでいる。

2024年度は、オンラインでの会議・研修会をベースに、対面での活動も増えてきている。Webを使った研修では、ブロックの垣根を越えて全国から研修に参加できる機会も増えている。

活動内容は、各ブロックの地域性やニーズに応じた様々なテーマの研修会や交流会が企画されていた。研修会では、災害や外国人の増加といった日本が抱える課題に対応するテーマや、専門職として必要な看護のテーマが選択されており、認定看護師として求められる資質向上に繋がる内容であった。また、交流会では、会員同士がそれぞれの活動を共有することで視野を広げることができ、認定看護師としての今後の活動への糧になるものであった。活動報告書から、参加者の満足度は高く、それぞれの認定看護師としての活動に活かされる内容であったと評価できる。

ブロック活動の運営については、前年度作成した「役員・委員等選任基準及び役割要項」をもとに、各ブロックで負担のないよう役員・委員を選出し、効率的かつ組織的、有機的に活動できる体制を整えた。また、ブロック長会議のなかで挙がった意見をもとに、「ブロック活動実施ガイドライン」の見直しを行った。活動申請から報告までの流れや書類提出に関して、より分かりやすく負担のかからないように改訂し、運用してもらっている。

今後も、会員一人一人が参加しやすく、皆で学びあえる活動ができるよう支援していきたい。そして、ブロック活動を通して、仲間づくりや仲間を増やすことにも貢献していきたい。

担当役員 理事 川崎 幸栄子
理事 田村 美樹枝

2. 総会及び同時開催研修会、交流会

6月8日の総会及び同時開催研修会は日本訪問看護財団会議室に8名が配信スタッフとして集まりZoom配信で行った。

総会は、出席78名+委任状181名 合計259名、同時開催研修会は、80名の参加があった。研修会では①訪問看護認定看護師更新申請のための情報提供②『働きやすい職場作りへの提言』をテーマに講演を開催した。講演会では、ハラスマントの定義、現状や実際に起きた事例、対策についてなどを学ぶ機会となった。重要事項説明書への明記やスタッフへの意識付けを行い、事業所全体でリスクマネジメントに取り組む重要性を学んだ。グループワークでは、情報共有と意見交換が活発に行われた。アンケートでは『認定看護師更新申請の情報』は98%が参考になった、『働きやすい職場づくりへの挑戦』は集計結果参加者全員が参考になったと、良い評価をいただいた。

11月30日の交流会では、2025年の更新審査変更に伴い「認定看護師更新制度の変更について」をテーマに事前収録で行った。46名の参加者があり会場は楽しい雰囲気に包まれていた。

講義では社会状況の変化と医療制度、認定看護師制度と個人審査の見直しについて、訪問看護・在宅ケア認定看護師の活動の展望について聞き、改めて私たちに今後求められる役割や期待されていることを実感した。さらに、私達のいちばんの関心事である「変更後の更新審査」ではどのような点が変更になるのか真剣に聞いていた。グループワークでは、特定行為研修、機能強化型訪問看護、若い世代の人材育成や他のブロック活動の話で盛り上がり参加者のアンケートからも高い評価がえられた。認定看護師としての自己研鑽及び、未来に向けての可能性を再認識する内容であった

担当役員 理事 前野 美紀
理事 山崎 佳子

3. 地域貢献活動

1) 訪問看護ステーションの運営改善相談・多機能化サポート

認定看護師の役割には「実践」「指導」「相談」があり、オンラインでの「訪問看護認定看護師によるコンサルテーション活動」を実施した。

近年、訪問看護事業所が多数開設されているが、訪問看護経験が浅いまま管理者を担う方も増えていることや、事業所の経営や運営、訪問看護制度、人材育成など病院とは違う訪問看護管理者ならではの相談を聞くことや、開設後まもなく閉鎖や休止してしまう事業所も見受けられる。このような状況を受け、2023年より全国の訪問看護ステーションの管理者を対象に私たち訪問看護認定看護師・在宅ケア認定看護師の力を役立てるため、今年度も地域貢献活動としてミニ講座&座談会を企画開催した。

会員の皆様へ講師とファシリテーターメンバーを募集し、参加希望者より4名選出して活動した。オンライン研修にも慣れ、準備から当日運営までZoomを利用し実施した。訪問看護認定看護師でも日々悩みながら実践していることが分かる講義と、同じような仲間とのグループワークはアンケート結果からも概ね好評で、明日からの仕事への意欲を感じたり継続した開催を希望されたりする結果となり、講義及びグループワークファシリテーションを認定看護師が実施する相談役割を再認識した。今後研修会の継続と個別な悩みにも対応できるようメール相談の運営も軌道に乗せていくたいと考えている。

担当役員	監事	野崎 加世子
	理事	田川 章江
	理事	豊田 好美

2) 訪問看護ステーションの BCP 作成支援

当協議会は今まで地域貢献活動に取り組んできたが、新たに収益化を踏まえ、昨年度より BCP 作成支援を開始した。昨年度は伴走型支援の手法で実施したが、今年度は既に介護事業所に BCP 作成が済んでいる状態であると予測されることから、見直しや研修、訓練について為になる内容に変更することとした。また、BCP は地域の他の事業所や職種との連携も視野に入れていくべきと考え、連携型 BCP についても言及することとした。

運営委員は昨年度の当事業経験者 3 名を含み、参加意思のある会員から選出し、担当理事を含めた 6 名のうち 5 名で取り組んだ。会議はすべてオンライン会議で実施し、昨年度の経験から SNS やメールを用い効率的に協議し、運営することが出来た。

結果としては 86 名の参加者（7 割が訪問看護師、他はケアマネジャー、セラピスト、事務）を対象に実施することができた。90 分の中に、BCP の意義や、研修・訓練・見直しのポイントを詰め込んだので「もっと時間をかけて具体的に行ってほしい」「分割して実施して欲しい」という声が聞かれた。全体としては「研修や研修の方法が分かった」「自部署でも行ってみたい」という回答を多数得ることが出来た。BCP は作成して終わりではなく、自部署が自分の地域の実情に合わせて取り組むプロセスが大事なので、BCP に取組む意味を参加者が気づき、取り組んでいこうという意欲につながった事が目的を達成できたと考ええる。

今年は地震や洪水だけでなく、豪雪被害や地盤沈下による住民避難と移動障害、山火事などが発生し、事業継続困難となる事象が自然災害だけないと考えさせられた年だった。訪問看護師たちが自立して地域の BCP を考え、取組めることが今後もできるよう、今回の取組をもとにブラッシュアップして、引き続き協議会の地域貢献に寄与していきたい。

担当役員 理事 戸崎 亜紀子

3) メール相談

訪問看護ステーションは増えているが、閉鎖、休止するステーションも変わらず多い。国も訪問看護相談支援センター試行事業を実施するなどしているが、まだ地域が限られ十分に機能はしていない現状がある。協議会に相談が増えており、ミニ講座＆座談会でも相談の場としての要望が聞かれている。

今回、訪問看護認定看護師として、悩める管理者さんが解決の糸口を見いだせるよう協力したいとの思いから2024年よりメール相談窓口を協議会ホームページへ開設した。実際活動してからのメール相談の件数2件と少ない状況である。またその対応の中ではメールでの相談の難しさを感じている。しかしミニ講座＆座談会後の相談の受け皿としても必要性はあり今後も地域の認定看護師を紹介しアドバイザーとしての活動へ発展していくなどの機能も含め継続していきたいと考える。

担当役員	監事	野崎 加世子
	理事	豊田 好美
	理事	田川 章江

4. 報酬改定に向けた活動

2024 年度の医療保険・介護保険の同時制度改定が行われたが、昨年度提出した要望は具体的には活かされなかった。次期「診療報酬改定」に向け、今年度から来年度にかけて引き続き要望書の提出ができるよう準備を始めた。

また、今年度は診療報酬改定への提言のみならず、2026 年度で「訪問看護・在宅ケア認定看護師」の養成教育機関が現在開講されているもの含めて全て閉講される予定となっており、他の教育機関開講の目途が立っていない状況である。よって、今年度は現在活動をしている「訪問看護・在宅ケア認定看護師」の実際の活動や効果などを可視化できるよう 2025 年 1 月～2 月アンケート調査を行った。このアンケート結果をまとめ、「訪問看護・在宅ケア認定看護師」の実際と地域での貢献、「訪問看護・在宅ケア認定看護師」のいないステーションとの違いなどを整理し、教育機関開講へつながるよう要望書として関係機関へ提出する予定である。

国はどのような状態になっても、住み慣れた場所での生活が送れるように地域包括ケアシステムを構築している。その中でも訪問看護師への期待が大きく、且つ私たち「訪問看護・在宅ケア認定看護師」の担う役割は更に大きくなっている。今後も私たち「訪問看護・在宅ケア認定看護師」の養成を止めることなく仲間を増やし、国民が住み慣れた場所での生活が送れるよう支援者の要として、皆の力を合わせ全国で活動を継続していきたいと考えている。

担当役員 理事 廣川 直美

別添資料

- 1 会員数及び9ブロック図
- 2 組織について
- 3 理事会の開催
- 4 会員活動調査集計結果（一部抜粋）

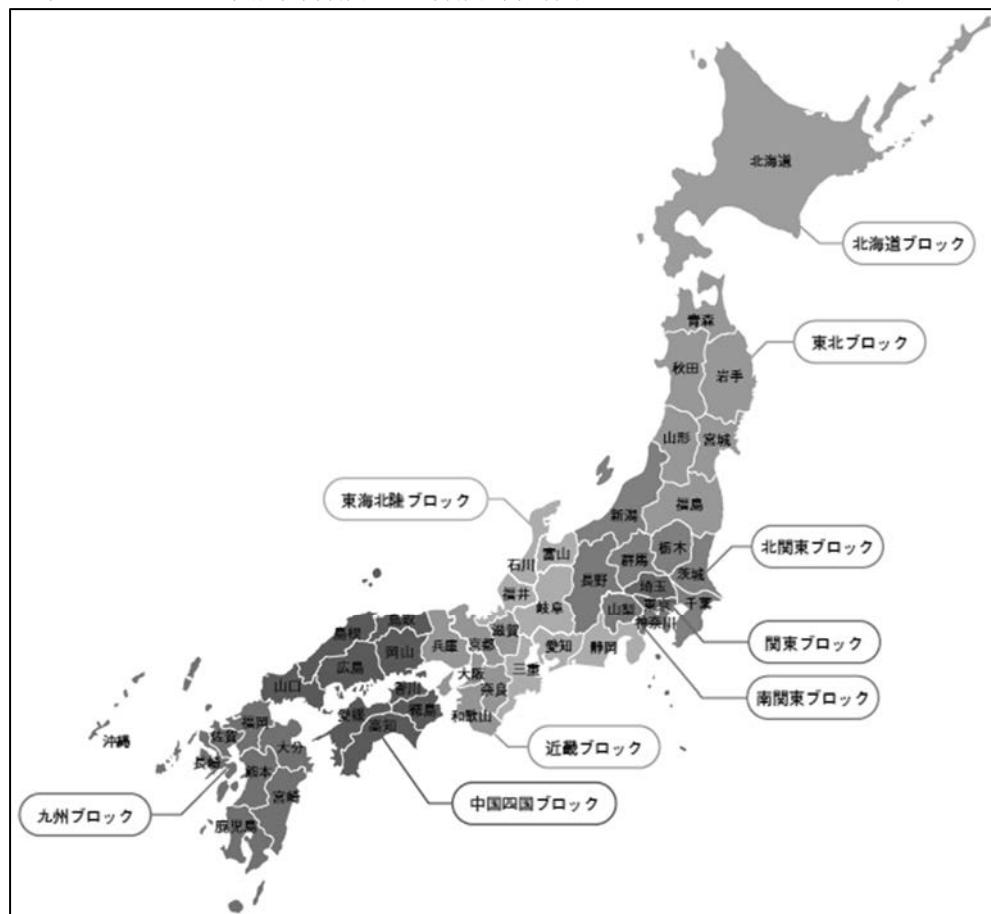
訪問看護認定看護師数・在宅ケア認定看護師数（日本看護協会 認定部資料）

1. 会員数 (2025年2月28日現在)

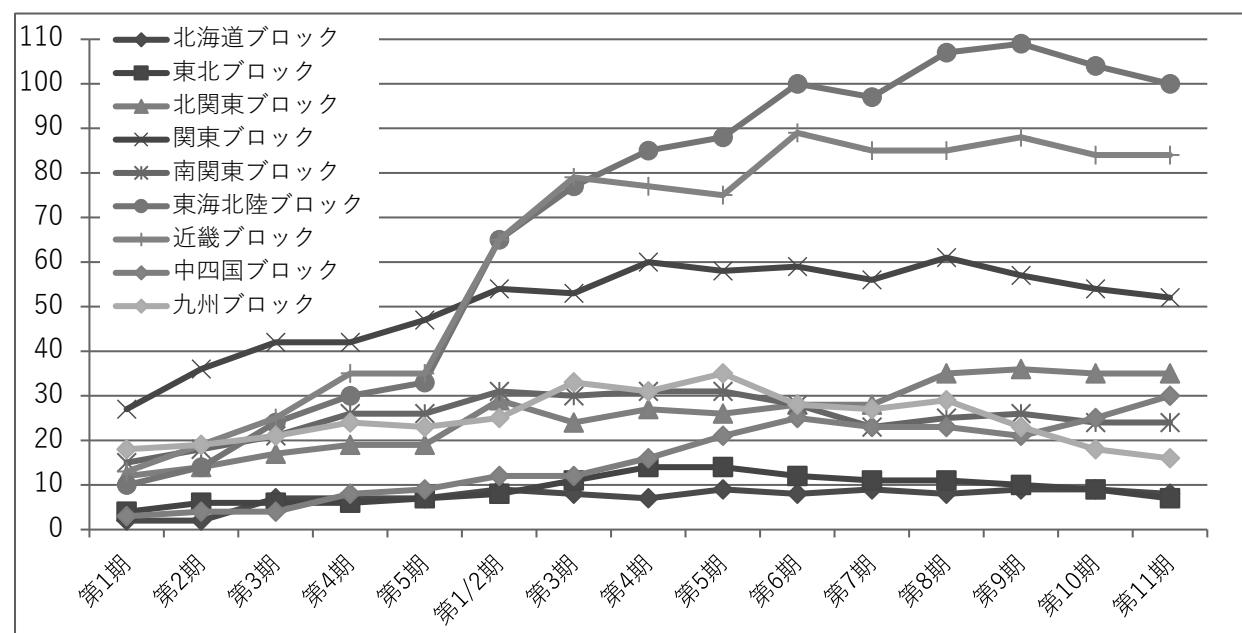
(1) 2024年度会員数

正会員 356名 · 賛助会員 6名

(2) 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会における9ブロック区分図

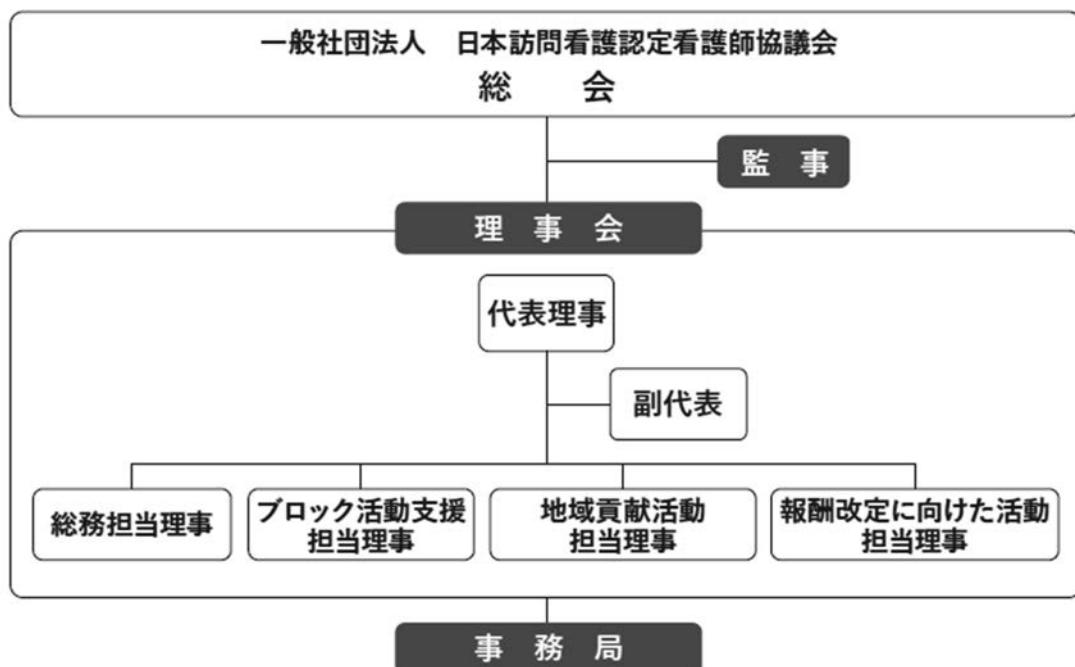


(3) ブロック別会員数の推移



2. 組織について

(1) 一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会における執行機関系統図



(2) 理事会・事務局名簿 (ロック順・敬称略)

〔理事〕

代表 大橋 奈美	医療法人ハートフリーやすらぎ 常務理事兼統括管理責任者 訪問看護ステーションハートフリーやすらぎ
副代表 廣川 直美	ナースステーション東京 目黒支店 所長
田川 章江	社会医療法人孝仁会 訪問看護ステーションはまなす
戸崎 亜紀子	公益財団法人 星総合病院 法人在宅事業部
山崎 佳子	株式会社 フレアス 看護小規模多機能事業部 担当部長
豊田 好美	一般社団法人 横浜市旭区医師会旭訪問看護リハビリステーション
前野 美紀	ケアシス訪問看護ステーション
田村 美樹枝	社会福祉法人恩賜財団済生会 済生会松山訪問看護ステーション 所長
川崎 幸栄子	公益社団法人 熊本県看護協会 訪問看護総合支援センター
〔監事〕 野崎 加世子	これからのはな医療看護介護を考える会 代表
〔事務局〕 公益財団法人 日本訪問看護財団	
	常務理事 平原 優美 / 課長 高橋 洋子 / 村田 由香里

3. 理事会等の開催

(1) 理事会

事業推進の為、下表のとおり開催した。今期もコロナ禍のため、全会議 Web での開催となった。

第1回	2024年4月27日（土）	Zoomにて開催	12名出席
臨時	2024年6月8日（水）	Zoomにて開催	11名出席
第2回	2024年9月14日（土）	Zoomにて開催	11名出席
第3回	2025年3月9日（日）予定	Zoomにて開催予定	11名出席予定



(2) ブロック長会議

ブロック活動の活性化を図ることを目的とし、まずは2024年5月23日（木）にブロック活動支援担当理事と事務局で今期活動の方向性を確認し、下表のとおり開催した。

ブロック長会議	2024年7月8日（土）	Zoomにて開催	11名出席
合同会議	2025年3月9日（日）予定	Zoomにて開催予定	12名出席予定



4. 会員活動調査集計結果

本協議会ではブロック活動の他に地域貢献を目的としたコンサルテーション活動など、協議会全体として取り組む活動がある。また、近年では、他団体からの協力依頼も頂くようになっている。理事会では、このような活動を企画・運営する人員を会員から選出しているが、その時に活用するのが、会員活動調査である。毎年の年度末に会員へ調査の協力依頼を行い、そのデータを元に次年度の活動メンバー選出に活用している。

一方、この調査から、協議会会員の活動の多様性を見ることも出来たため、それを示せるデータを報告する。

「協議会会員の活動調査 2024 年度版」より

調査時期：2024 年 2 月 1 日～2024 年 12 月 31 日

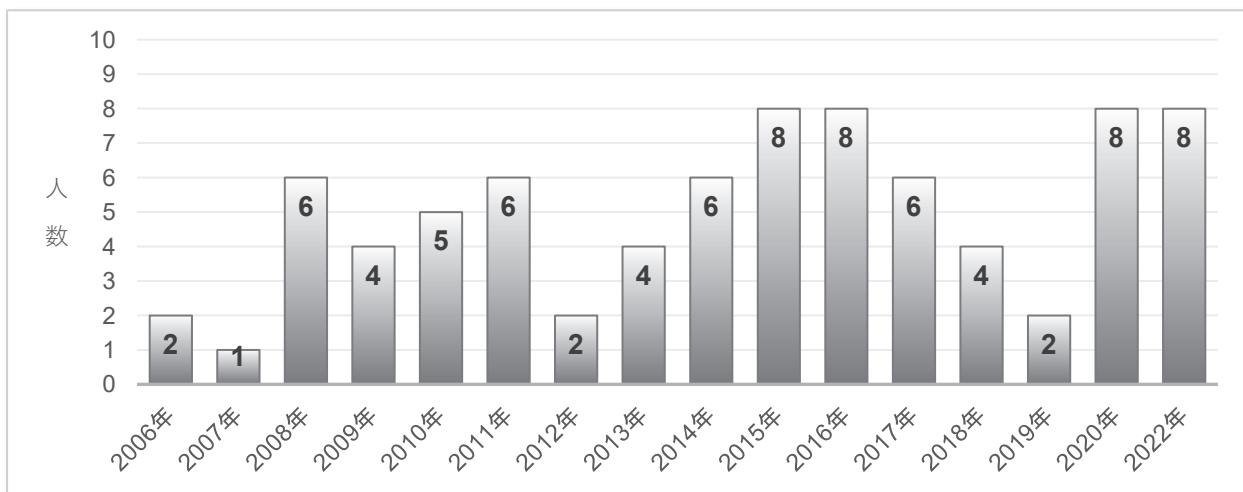
調査対象：一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会 正会員 356 名

調査方法：Google フォームによるアンケート方式

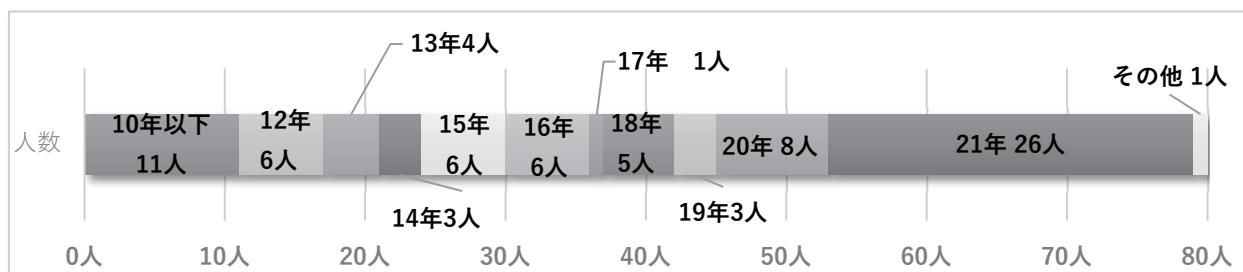
回答数：80 名（回収率 22.4%）

●回答者の情報

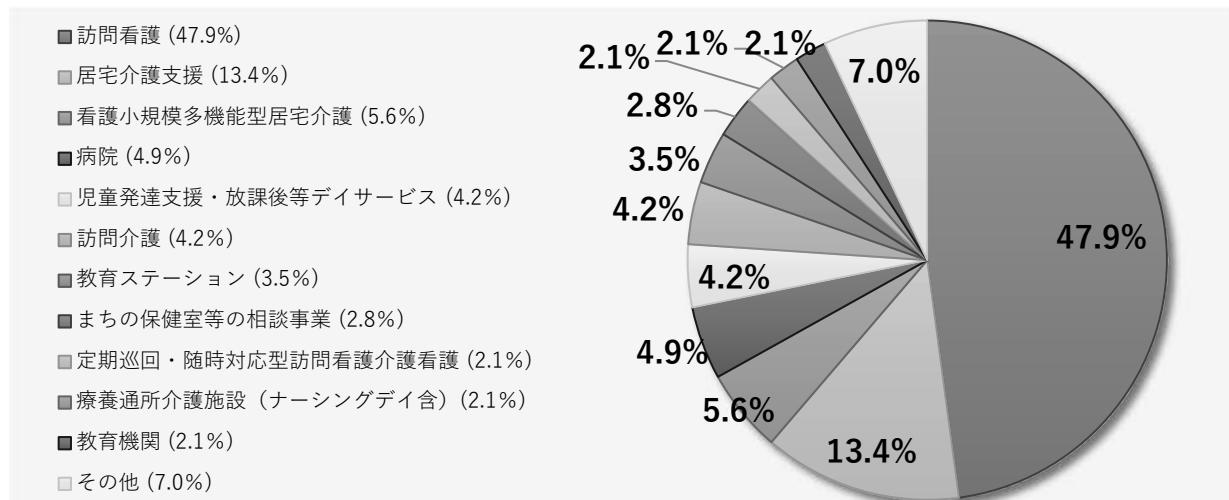
1) 回答者の認定取得年 (n=80)



2) 回答者の訪問看護経験年数 (n=80)

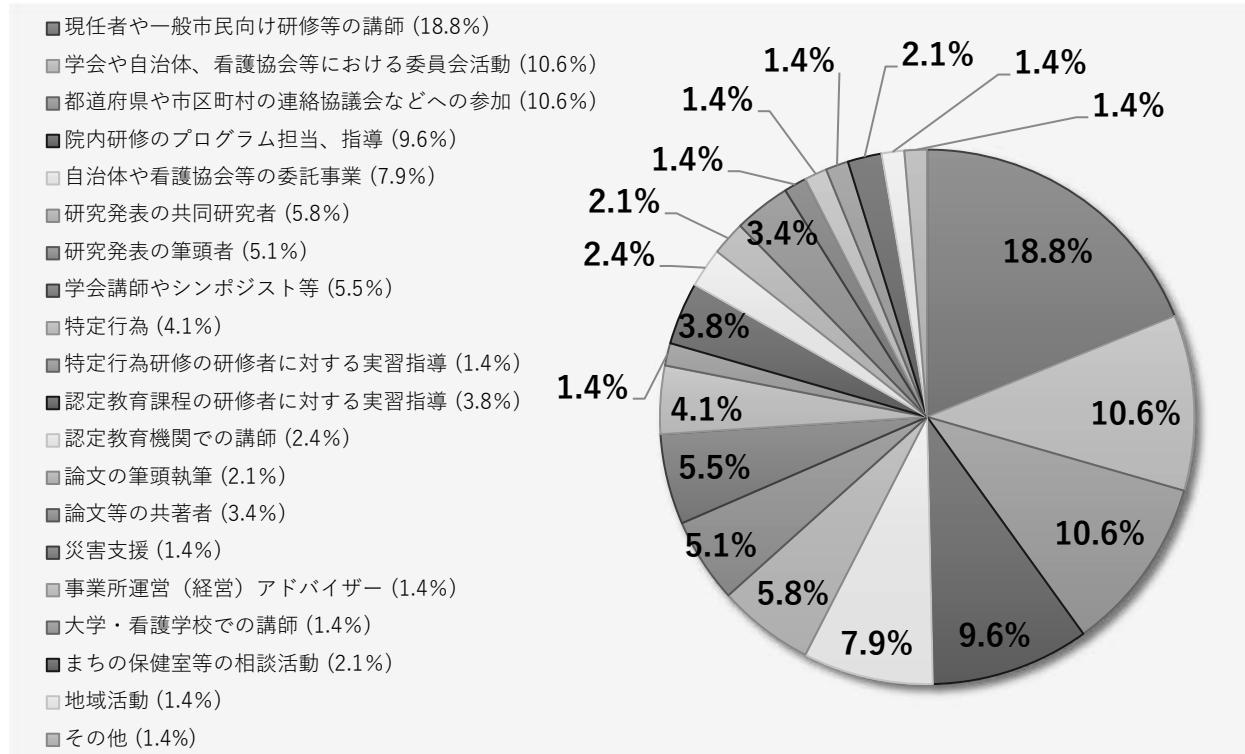


3) 回答者の所属先事業形態 (n=80 複数回答)



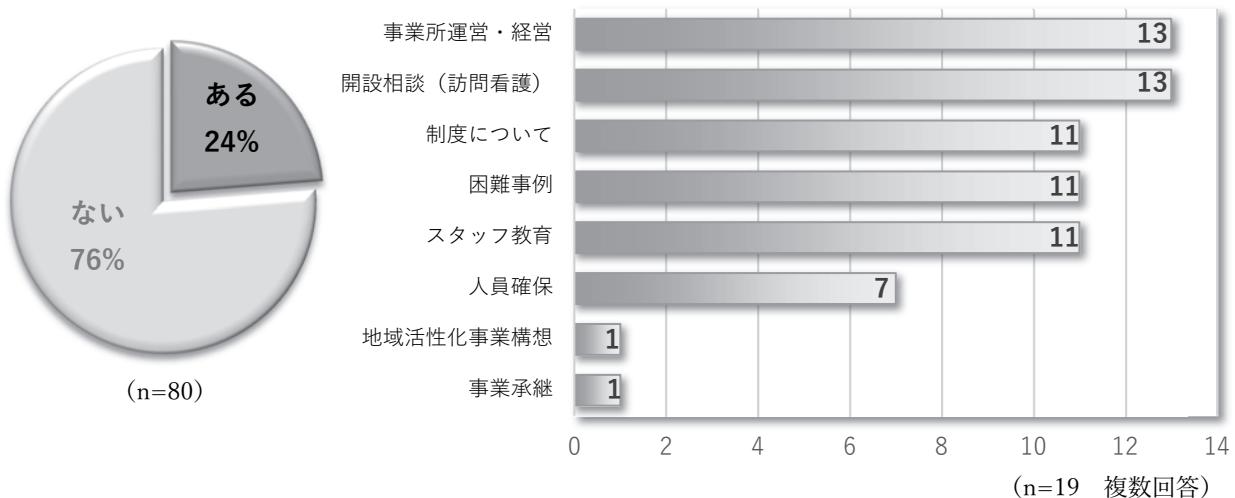
その他は、高齢者相談・虐待対応、地域の健康相談事業、ドヤの巡回相談宿泊施設・支援付きアパートの運営、保育園、事業所向け相談事業・研修事業など、相談支援、有料老人ホーム、共同生活援助(障害者グループホーム)、サ高住であった。

4) 回答者の業務外活動 (n=80 複数回答)

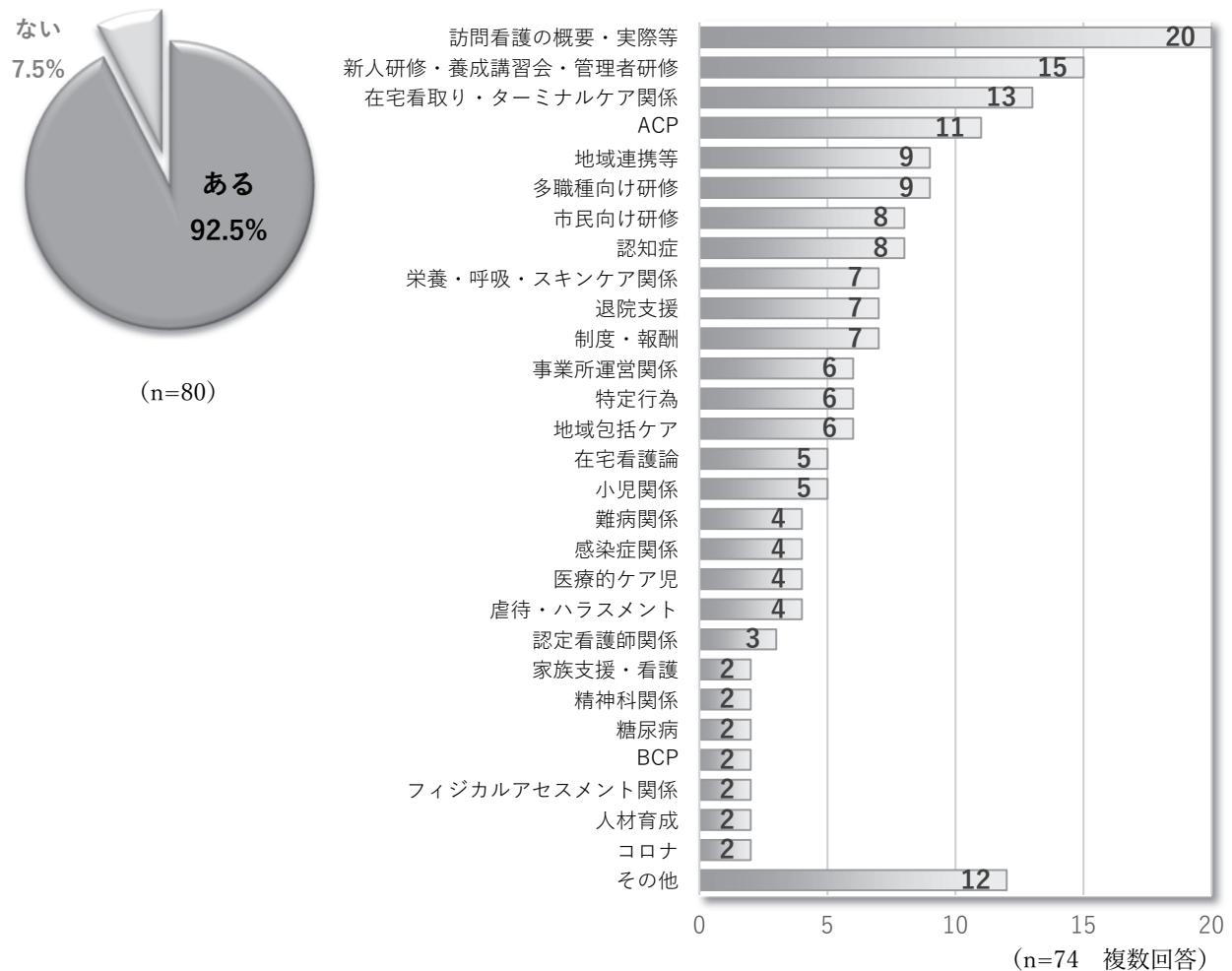


地域活動では、医療的ケア児の保護者の集い（行政主催）、地域サロンや公団での出前講座、地域における勉強会の世話人、事例検討会の事務局、地域多職種による活動があげられ、その他は、座長、まちづくり委員会の月例会議があげられた。

5) ここ5年以内の、相談や事業所アドバイザーの実施経験の有無と、実際に受けた相談内容



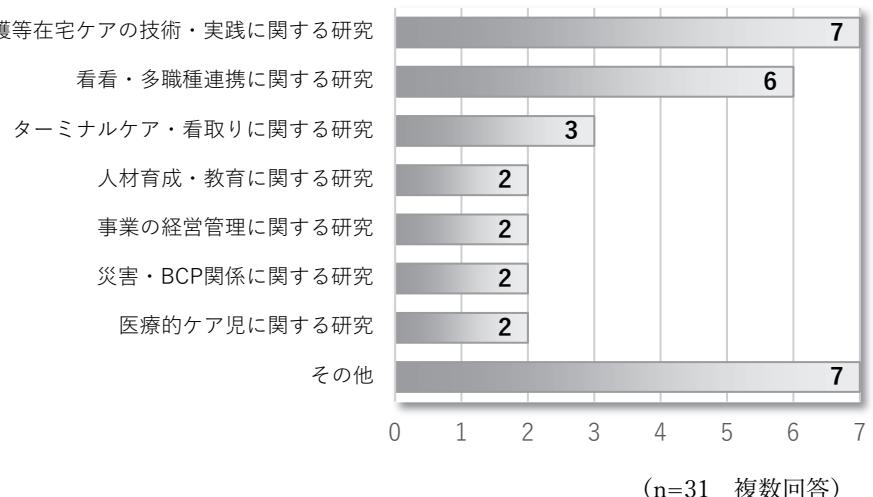
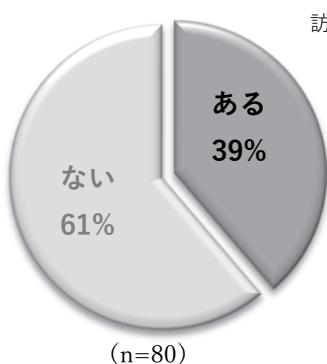
6) 講義や講演の依頼有無と、実際に行った内容



多職種向け研修は主にケアマネジャー向けに「訪問看護の導入タイミングや活用のしかた」や、介護職、ヘルパー向けの「看取り」や「認知症」「気管切開利用者のケア」等、市民向け研修は「住み慣れた地域で暮らす」「地域医療と訪問看護」といった訪問看護の利用を啓発する内容の他、「看取

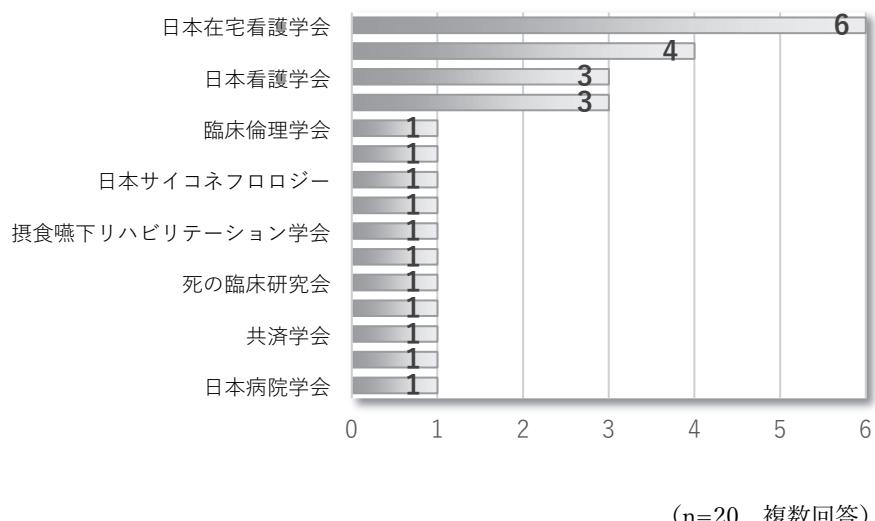
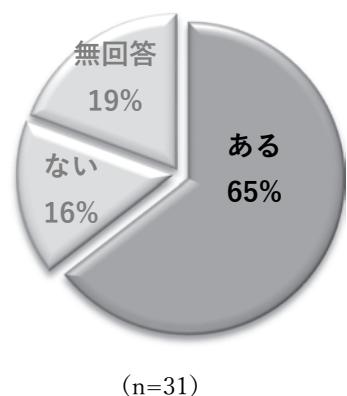
り」「脱水・熱中症予防」「生活習慣」などがあげられた。その他については、導尿、摂食嚥下、心不全、熱中症、臨床推論のほか、クリニカルラダーや身寄りのない方への支援など、多岐にわたっていた。

7) 研究実施の有無と実施したテーマ

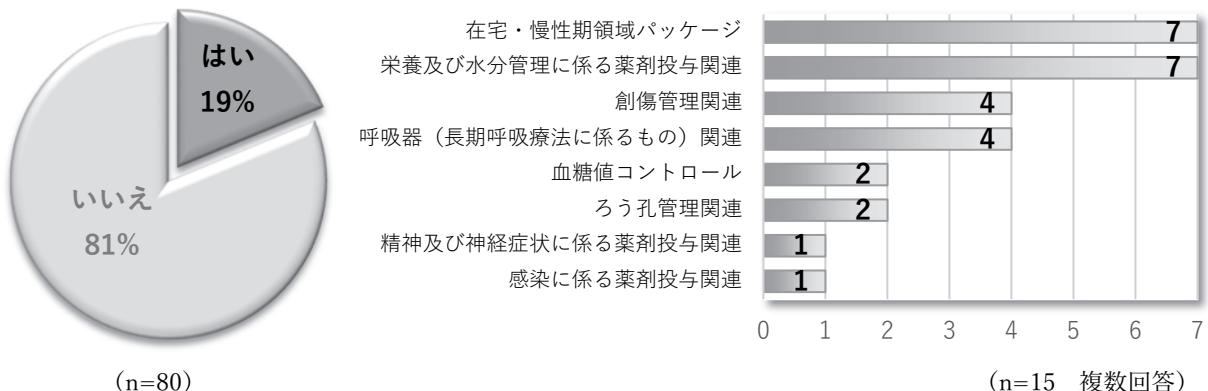


その他については、訪問看護師に対するハラスメント調査や心身共に病んでいく主介護者への関わり、ニューロダイバーシティに関することなどがあげられた。

8) 7) で「ある」と回答したうちの学会発表の有無と実施した学会

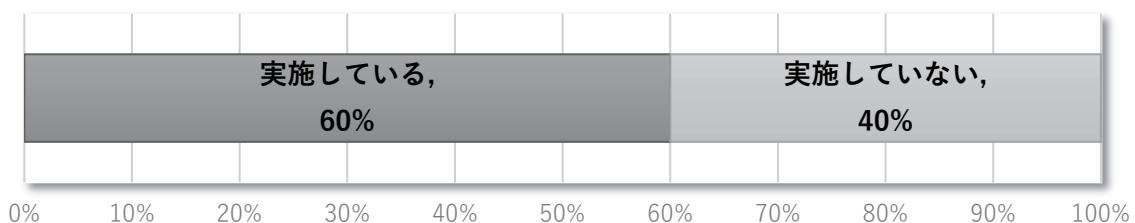


9) 特定行為研修の修了有無と取得した分野



修了したと回答した方のうちのほとんどが特定認定看護師へ移行し、まだ移行していないと回答した方も、これから移行手続きを行う予定であった。

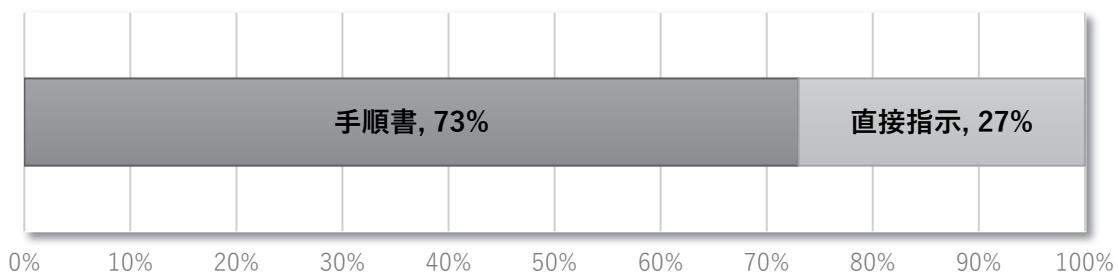
10) 9) で「はい」と回答したうち、特定行為研修を実施しているか？ (n=15)



実施していない理由は「対象者がいない」や、「臨床所属でない」「管理業務をしている」など担当業務によるものほか、「休職中」という回答であった。

11) 10) で「実施している」と回答したうち、手順書に基づく実施と直接指示による実施の比率

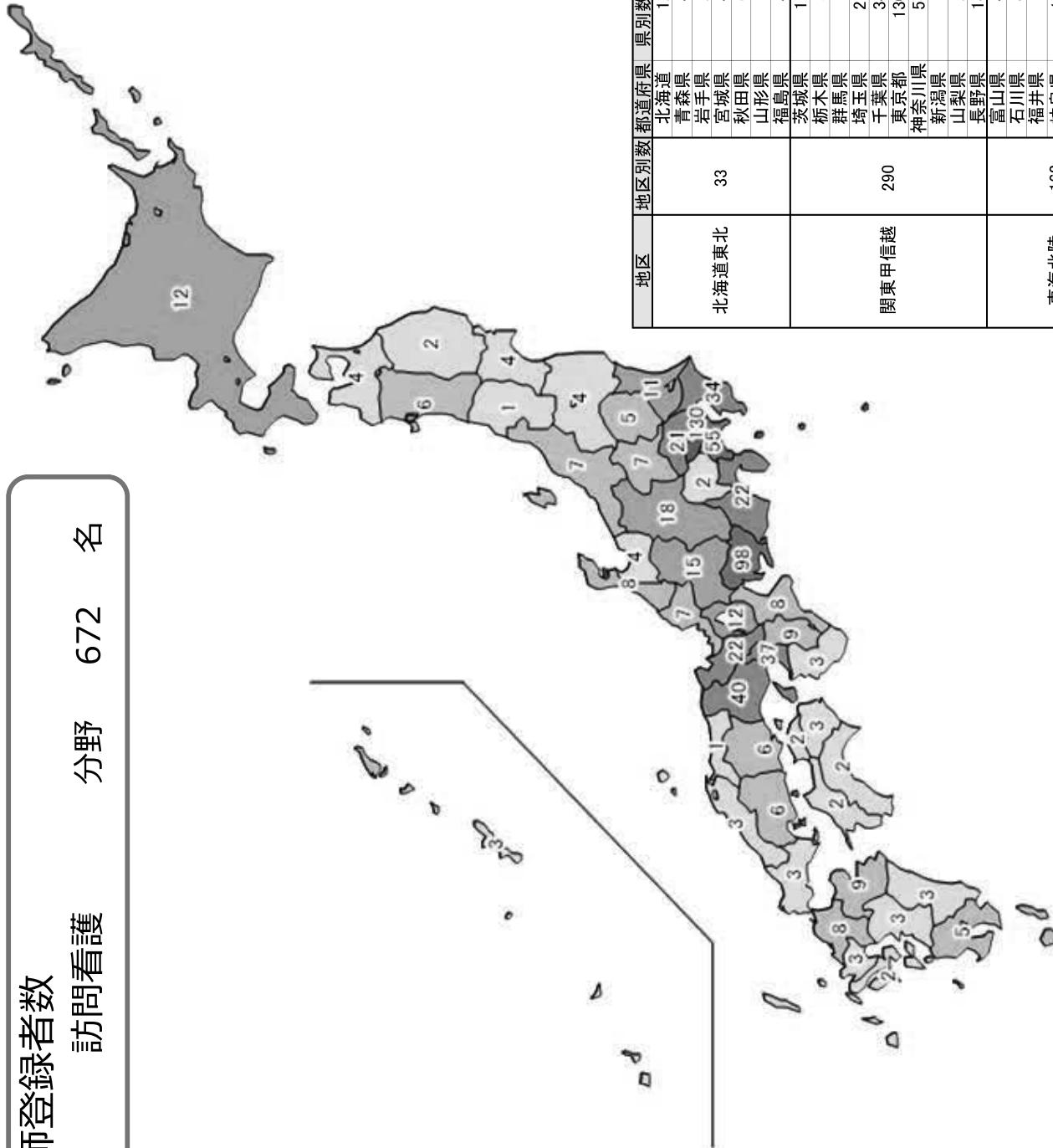
(n=9)



以上

認定看護師登録者数
【A課程】7. 訪問看護

分野 672 名



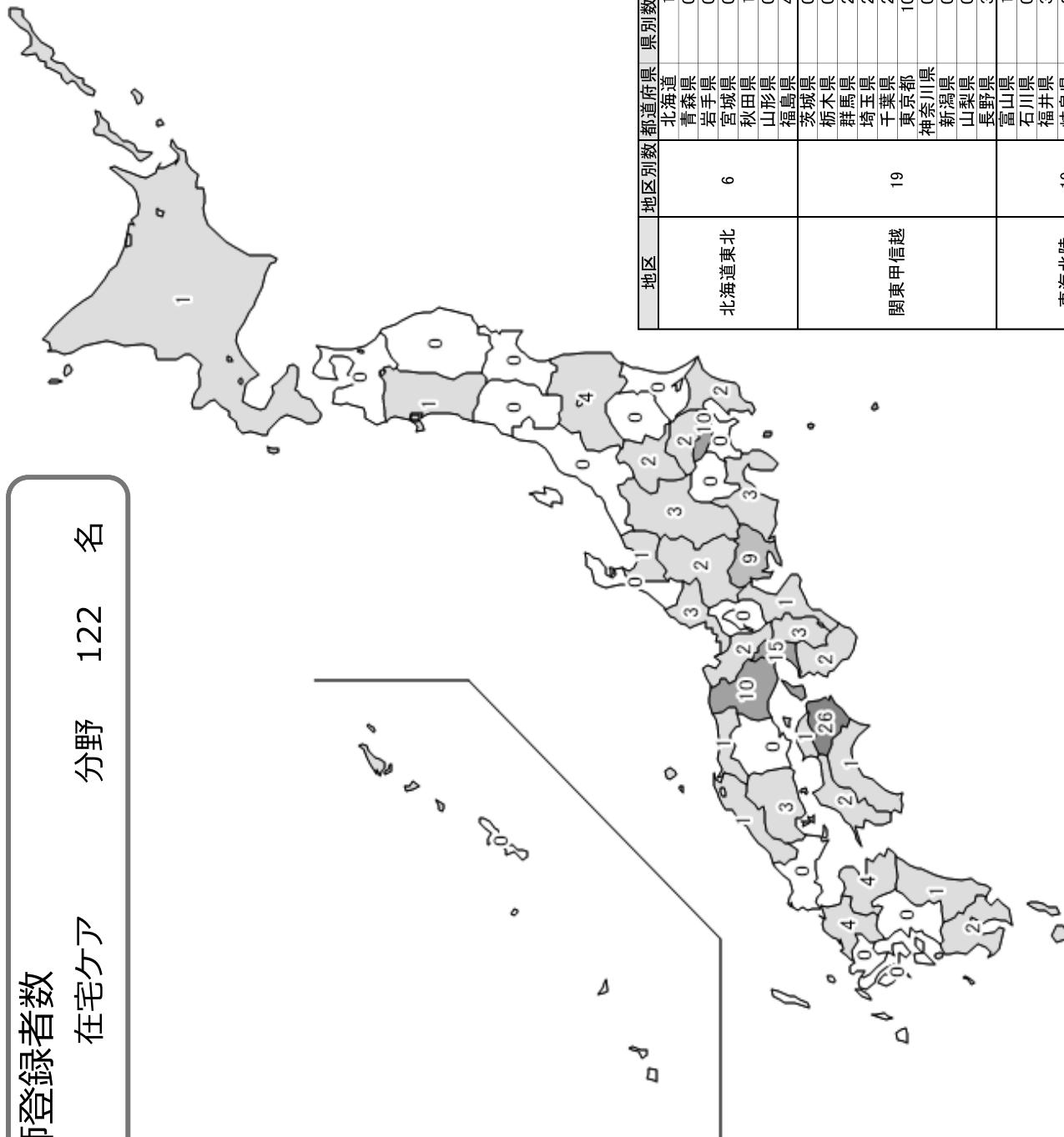
地区	地区別数	都道府県	県別数	地区	地区別数	都道府県	県別数
北海道東北	33	北海道	12	近畿	123	滋賀県	12
		青森県	4			京都府	22
		岩手県	2			大阪府	37
		宮城県	4			兵庫県	40
		秋田県	6			奈良県	9
		山形県	1			和歌山县	3
		福島県	4			鳥取県	1
		茨城県	11			島根県	3
		栃木県	5			岡山县	6
		群馬県	7			広島県	6
		埼玉県	21	中国四国	28	山口県	3
		千葉県	34			徳島県	3
関東甲信越	290	東京都	130			香川県	2
		神奈川県	55			愛媛県	2
		新潟県	7			高知県	2
		山梨県	2			福岡県	8
		長野県	18			佐賀県	3
		富山县	4			長崎県	2
		石川県	8			熊本県	3
		福井県	7			大分県	9
		岐阜県	15			宮崎県	3
		静岡県	22			鹿児島県	5
		愛知県	98			沖縄県	3
		三重県	8	その他	0	(海外)	0
						総数	672

認定看護師登録者数

【B課程】7. 在宅ケア

分野

122 名



2024 年度日本財団助成事業

訪問看護認定看護師による在宅ケア・在宅看取り活動の推進事業報告書

2025 年 3 月 31 日 印刷・発行

発行



一般社団法人 日本訪問看護認定看護師協議会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル 5 階

公益財団法人日本訪問看護財団内

TEL 03-5778-7008 FAX 03-5778-7009 URL <https://jvncna.net/>

印刷

株式会社 サンワ

● 記載事項の一部または全部について、許可なく複写・複製することを禁じます

Supported by  日本 THE NIPPON
財團 FOUNDATION